

はじめに

めまぐるしく変化した平成の時代が終わりを告げようとしている。この30年を思い返してみると、その変化のスピードは、私たちの想像をはるかに超えるものがある。インターネットや携帯電話の普及、そしてその2つの機能を併せもったスマートフォンの登場。コンピュータも飛躍的に進化した。平成がスタートした頃は、デスクトップ型がほとんどで、CPUの性能が低いため、処理に時間がかかり、メモリの容量もMBなどと小さく、動画などは保存が難しい状況であった。それが現在はどうかであろう。CPUの性能が飛躍的に向上し、メモリもTBなどという想像を絶するものも登場している。そして、現在の花形はAI (Artificial Intelligence) 人工知能である。ロボットや自動車の制御などをはじめ、私たちの身近な生活にAIが急速に進出してきている。

そのような激しい社会の変化の中、「今の子どもたちの65%は、今ない職業に就く」、「10~20年後、約47%の仕事は自動化される」という有識者の声もある。現時点では想像することすら難しいことではあるが、そのようなことが仮に現実になるとすると、私たち教師は目の前の子どもたちに、どのような力を身に付けさせればよいのか……。悩ましいところであるが、それを考えるヒントがいくつかある。

その一つ目。脳科学者の茂木健一郎さんによると、人間が人工知能に勝るものが5つあるという。列挙すると、①コミュニケーション ②身体性 ③発想・アイデア ④直感・センス ⑤イノベーション (新しいものを生み出す) であるらしい。また、ある進学校の校長は言っている。「進学校なので、当然成績を上げることや志望校に合格することを目標としています。しかし、それは第一目標ではありません。自分で考え、自分で計画を立て、自分で学べるように育てていくのが、第一目標なのです。」

また、ある大学教授は「今教えている知識だけでは、子どもたちの生活に活かすことはできないかもしれない。そう考えると、大切なのは『学ぶことを学ぶ』ということだと思います。そのためには、私は「学ぶことを楽しむ」必要があると思っています。でなければ学び続けられないでしょうから。ぜひ先生方には、固定概念を外し、新しいことに挑戦していただきたい。」と言っている。科学技術の進歩に伴う社会の変化や、プログラミング教育をはじめとする学習内容の変化に、私たち教員は立ち向かっていかなければならないのである。

前置きが長くなったが、そのような中、今年度「視聴覚教育委員会」と「情報教育委員会」が統一され、「視聴覚・情報教育委員会」がスタートした。序論の話待たずともなく、両委員会とも時代の花形となる分野である。正直そのような2つの委員会が統一されて、うまくいくのだろうかという不安もあったし、両委員会が長年かけて蓄積してきたものをうまく融合させれば、今までにない素晴らしいものが出来上がるのではないかという期待もあった。そんな複雑な思いの中スタートした平成30年度であったが、いらぬ心配は無用であった。両委員会のメンバーが、連携または切磋琢磨し、より良いものを構築していこうという気概のもと、年間を通してさまざまな活動に取り組んだ。その象徴が、夏季休業中に実施した「愛媛県視聴覚・情報教育研修会」である。約100名の参加者のもと、講演、ワークショップ等内容も時代に即したもので、盛会のうちに研修会を終えることができた。その他、県外出張等にも多数参加していただき、研修を深めていただくことができた。

そのような1年間の歩みの集大成となるのが、本研究紀要である。各支部及び県全体の活動報告、各研究会参加報告、実践事例、実態調査等内容も豊富であるし、今後につながる成果や課題も満載である。お互いの研究成果を共有し、次へのステップに役立てていただければ幸いである。

最後に、ご指導いただいた関係機関の皆様、原稿をお寄せいただいた先生方、編集にご尽力いただいた先生方に心よりお礼を申し上げたい。

(小・中学校共通)

視聴覚・情報教育 (視聴覚教育)

I 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践

II 研究のねらい

情報化が著しく進展する社会の中であって、私たちは各種の情報機器に取り囲まれて生活している。したがって、これからの学校教育においては、高度情報社会に生きる児童生徒に必要な資質・能力を育成することが重要な課題となっている。新学習指導要領においても、情報活用能力(情報モラルを含む)が学習の基盤となる資質・能力であることが明記され、ICT活用についてもさらなる充実を図ることが示されている。また、情報機器や新しい教育メディア等は教育現場にも急速に普及しつつあり、教師にとっても情報活用能力の向上が重要な課題の一つとなっている。社会の情報化への対応は、今まさに教育の喫緊のテーマとなっている。

そこで、視聴覚教育では、学習活動に教育メディアを効果的に活用することで、児童生徒の豊かな感性の育成や学習意欲の向上、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図ってきた。また、発達の段階に応じて、情報との関わりをもたせた指導を体系的に行うことで、児童生徒の情報活用能力や思考力、判断力、表現力等の育成に寄与してきた。

これまでの実践や研究を踏まえた取組を進めていくとともに、人との関わりの中でたくましく生き抜くために求められるコミュニケーション能力や豊かな心の育成を目指した視聴覚教育の研究を行いたいと考える。

III 研究の視点

1 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等において、教育メディアの特性を生かした授業改善に努め、児童生徒の「生きる力」を育成する。

(1) 各教科等において教育メディアを活用した授業研究を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図る。

ア 組織的・系統的な指導のための各教科等の指導計画への適切な位置付け

イ 思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力等を育成するための教育メディア活用の実践研究

ウ 教育メディアを活用した指導方法の工夫と授業評価

(ア) 映像・音声の特性を生かした教材開発や学習展開の工夫

(イ) 電子黒板、タブレット端末などのICTを含めた教育メディアを授業に活用するための研修会の充実

(ウ) 教育メディアを活用した授業の分析及び評価

(2) 児童生徒による主体的・創造的な教育メディアの活用を図る。

- 2 放送教育を教育活動に適切に取り入れ、児童生徒の確かな学力や豊かな感性を育てる。
 - (1) 放送番組の教育的機能を生かした学習活動を展開する。
 - ア 児童生徒の感性や学ぶ意欲を高めるための、放送番組の活用と評価の充実
 - イ 放送番組や関連する映像・音声等のデジタルコンテンツから、学習に必要な情報を収集し、活用することができる能力の育成
 - ウ 放送番組とインターネットを組み合わせ活用し、関連する体験活動を設定することによる学習効果の向上
 - (2) 校内放送の充実により学校生活の活性化を図る。

- 3 教育メディアや施設及び機器等の整備を図り、点検や管理の方法を工夫して常時活用できるように努める。
 - (1) 自作教材（地域素材を含む）やその活用事例を蓄積する。
 - (2) 児童生徒や教職員が、教育メディアを利用しやすい教育環境の整備に努める。

- 4 著作権・肖像権に関する研修を充実し、教育活動における著作物の適切な活用に努める。

平成 30 年度に開催予定の研究大会

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------------|-------------|
| ○ NHK杯全国中学校放送コンテスト愛媛大会 | 7月(予定) | NHK松山放送局 |
| ○ 教育機器実技研修会（全県・東予・中予・南予） | 8月(予定) | 県内会場 |
| ○ 愛教研視聴覚・情報教育研修会 | (平成30年度は中予地域で開催) | |
| ○ 第22回視聴覚教育総合全国大会・第69回放送教育研究会全国大会 | 合同大会 | |
| | 11月16日(金)・17日(土) 広島県広島市 | |
| ○ 第50回放送教育研究会四国大会香川大会 | 10月25日(木) | 香川県丸亀市 |
| ○ 愛媛県視聴覚教育研究大会 | 10月24日(水) | 愛媛県生涯学習センター |
| ○ 愛媛県自作視聴覚教材コンテスト | 平成31年1月(予定) | 愛媛県生涯学習センター |

視聴覚・情報教育 (情報教育)

I 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践

II 研究のねらい

情報化が著しく進展する社会の中であって、私たちは各種の情報機器に取り囲まれて生活している。したがって、これからの学校教育においては、高度情報社会に生きる児童生徒に必要な資質・能力を育成することが重要な課題となっている。新学習指導要領においても、情報活用能力（情報モラルを含む）が学習の基盤となる資質・能力であることが明記され、ICT活用についてもさらなる充実を図ることが示されている。また、情報機器や新しい教育メディア等は教育現場にも急速に普及しつつあり、教師にとっても情報活用能力の向上が重要な課題の一つとなっている。社会の情報化への対応は、今まさに教育の喫緊のテーマとなっている。

そこで、情報教育では、情報教育及び教科指導等におけるICT活用について研究を進めてきた。指導に当たっては、小中学校間の連携を重視するとともに、学校教育全体を通じた系統的・体系的な情報教育を推進してきた。

文部科学省は、「教育の情報化加速化プラン」を策定（平成28年7月29日）し、平成28年度から5年間を対象として、2020年代に向けた教育の情報化に対応するための今後の対応方策について示しており、これに沿って教育の情報化を推進していく必要がある。

教育の情報化とは、児童生徒の情報活用能力の育成を目標とした情報教育、教科指導におけるICT活用、校務の情報化の三つの要素から構成されている。

情報活用能力の育成については、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つの観点で整理し、これらバランスよく身に付けさせることが求められている。

教科指導におけるICT活用は、教員が授業のねらいを達成するために、ICTの特性を生かした活用によって授業改善を図ること、児童生徒がICTを活用した主体的・対話的で深い学びを通して学力を高めることが目的であり、教員のICT活用指導力の向上が不可欠である。

一方、校務の情報化の目的は、効率的な校務処理とその結果生み出される教育活動の質の改善にある。よりよい教育を実現するために、必要な環境整備とシステムの適切な構築と運用、検証に務めなければならない。

これらのことを踏まえて、学校教育の情報化を推進する取組を通して、未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むための新たな「学び」やそれを実現していくための「学び場」を形成していくことを目指す。

III 研究の視点

1 高度情報通信社会に主体的に対応できる情報活用能力の育成

コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の特性を理解し、情報を適切に選択し活用していくための基礎的な資質を養うとともに、情報モラル等を扱うことによって情報社会に参画する態度と実践力を育てる。

2 ICTを活用した学習指導の工夫・改善

ICTを効果的に活用した学習指導の改善を行い、児童生徒一人一人の学びの充実を図る。

3 教員のICT活用指導力の向上

ICTを活用した授業や校務の情報化に関する研修を充実させ、ICT活用指導力の向上を図る。

IV 留意事項

- 1 各学校において、情報教育の全体計画を作成するとともに、児童生徒の発達の段階に応じてICTを活用した学習活動を位置付け、系統的な年間指導計画を作成する。
- 2 特別な支援を必要とする児童生徒の指導において、その障がいの状態や発達の段階に応じてICTを積極的に活用することにより個に応じた指導の効果を高める。
- 3 道徳の時間をはじめ、学校の教育活動全体を通して、児童生徒の発達段階や実態等を考慮し、家庭・地域との連携を図りながら、情報モラル教育の充実を図る。
- 4 ICTを活用した校務の情報化を推進する。その際、個人情報保護法等にのっとり、情報管理のためのガイドラインやセキュリティポリシーを作成し、コンピュータやメディアのセキュリティ対策を充実させ、情報漏えいやウイルス被害の防止の徹底を図る。
- 5 教育行政等と連携し、コンピュータ、デジタル教科書や教育用ソフトウェア、電子黒板、タブレット端末、無線LAN等の環境整備を進めるとともに、その活用研究を図る。
- 6 各学校における教育の情報化の推進体制を確立し、校内研修を充実させるとともに、各支部の研究組織や市町教育委員会、愛媛県総合教育センターとの連携を密にして、教育の情報化の推進を図る。
- 7 愛教研グループウェア等の活用を広め、教職員・児童生徒が情報手段を適切に利用できるよう研究する。

(参考)

教育の情報化の推進 Webサイト

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm

教育の情報化に関する手引 Webサイト

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

教育の情報化ビジョン

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/06/26/1305484_01_1.pdf

教育の情報化加速化プラン

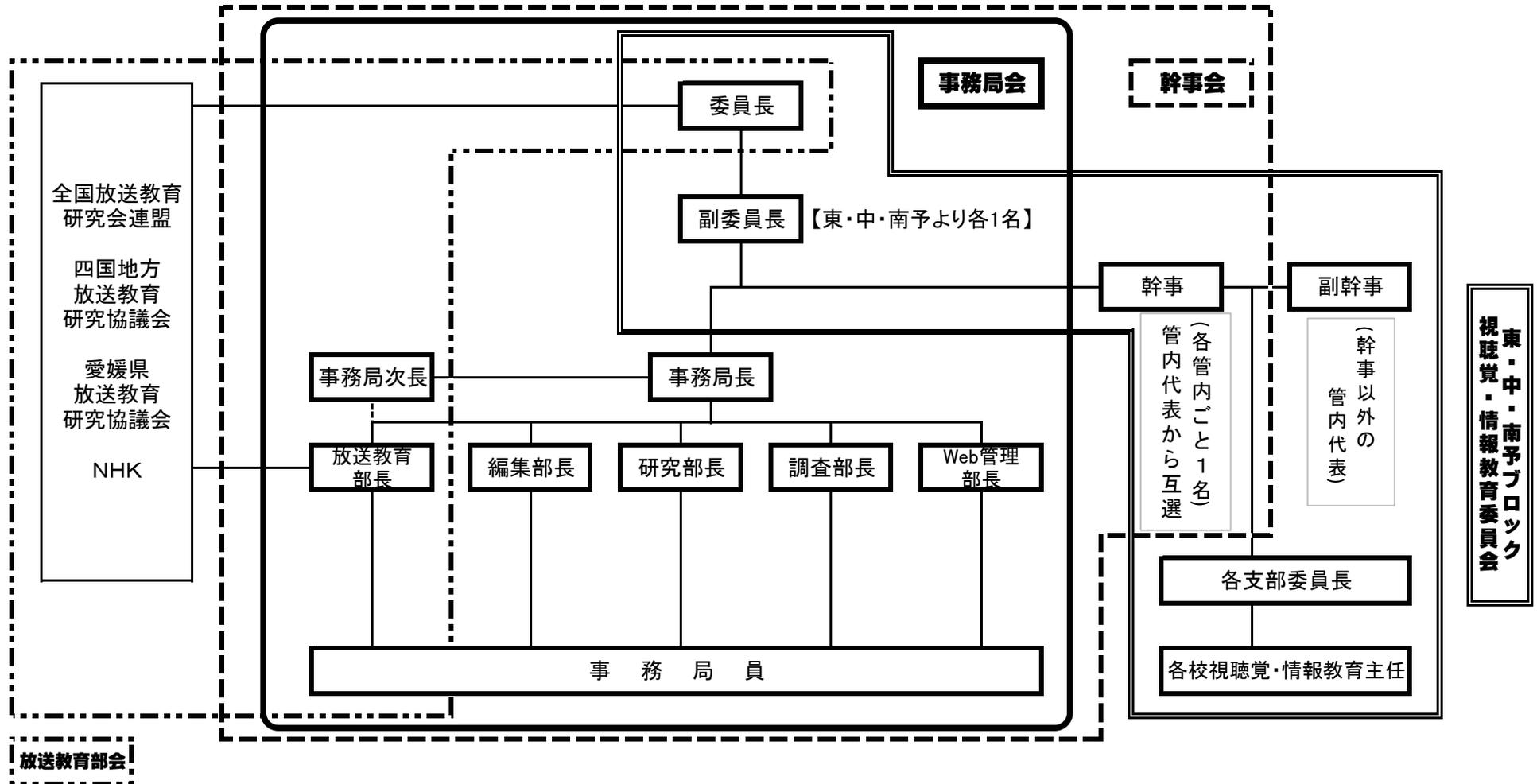
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/07/__icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375100_02_1.pdf

日本教育工学協会 (JAET) <http://www.jaet.jp/>

平成30年度に開催予定の研修会

- グループウェア・ホームページ推進担当者養成研修会
- 愛教研視聴覚・情報教育研修会 (平成30年度は中予地域で開催)

平成30年度 愛媛県教育研究協議会視聴覚・情報教育委員会組織図



- 県下全域における視聴覚・情報教育の充実・発展をめざした研修会を開催するため、東・中・南予ごとに各副委員長をトップとするブロック視聴覚・情報教育委員会を組織する。
- 事務局会に参加する副委員長は、中予副委員長のみとする。
- 東・中・南予各ブロックの視聴覚・情報教育委員会は、各校視聴覚・情報教育主任及び、各校視聴覚・情報教育主任より選ばれた各支部委員長、各管内代表者（視聴覚・情報委員会事務局からの推薦による副幹事を含む）、副委員長で構成される。
副委員長 ～各ブロックを代表し、全体の研究推進を目指して企画・運営及び連絡調整にあたる。ただし、中予地区選出の副委員長については、委員長を補佐・代行し、主に旧情報教育部門全般を担当する。
幹事 ～副委員長・副幹事と協力して研究推進の企画・運営を行い、副幹事・支部委員長との連絡調整を行う。
副幹事 ～幹事を補佐し、研究推進の企画・運営及び、支部委員長との連絡調整などを行う。
支部委員長 ～担当支部内の研究推進の中心となって活動し、各小中学校との連絡調整を行う。

平成30年度 視聴覚・情報教育委員会年間活動報告

月	行 事 等
5 月	<p>○事務局会 5月17日(木) 16:30～ 文教会館 平成30年度の事務局編成について 愛教研推進委員会について</p> <p>○都市教科等委員長会 5月23日(水) 10:30～ 文教会館</p> <p>○愛媛県教育研究推進委員会(視聴覚・情報教育委員会) 5月23日(水) 13:30～ 附属小学校 役員選出 本年度の研究方針について 本年度の事業計画について 愛教研視聴覚・情報教育委員会規定について 愛教研視聴覚・情報教育委員会組織について 年間活動報告・年間活動計画について</p> <p>○愛媛県放送教育研究協議会理事会 5月28日(月) 15:30～ NHK松山放送局 昨年度事業・年間活動報告について 本年度事業・活動計画について</p>
6 月	<p>○視聴覚・情報教育研修会の案内文書作成と発送 6月15日(金) 各都市愛教研支部に、視聴覚・情報教育研修会案内文書発送</p> <p>○第1回幹事会 6月22日(金) 15:30～ 文教会館 平成30年度 視聴覚・情報教育委員会について 研究紀要について 愛教研ホームページ推進担当者養成研修会について CMS・グループウェア研修会について 視聴覚・情報教育研修会について</p> <p>○愛教研グループウェア推進担当者養成研修会 6月29日(金) 14:00～14:30 総合教育センター グループウェアの操作実習</p> <p>○愛教研ホームページ推進担当者養成研修会 6月29日(金) 14:30～16:30 総合教育センター CMSによるWebページの作成手順 ホームページ作成実習</p>
7 月	<p>○NHK杯全国中学校放送コンテスト愛媛大会 7月26日(木) NHK松山放送局</p> <p>○研修視察 平成30年度 高知県放送・視聴覚教育夏季研修会 D-project高知 7月30日(月) 香美市立山田小学校</p>
8 月	<p>○視聴覚・情報教育研修会 8月8日(水) 9:00～16:00 松前総合文化センター</p> <p>実践事例発表 「ICT機器を活用した授業 実践事例」 東予市立東予東中学校 相原 麻衣 教諭 「主体的・対話的で深い学びへの質的変換のためにICTを効果的に活用する児童の育成 ～教職員の情報活用能力向上の研修を通して～」 松山市立小野小学校 中本 孝一 教諭 若宮 磯一 教諭 「効果的なICT活用の実践～タブレット端末を活用した実践事例～」 西予市立皆田小学校 橋本 達哉 教諭</p> <p>実践研究発表 「学級内SNSを活用したメディアリテラシー育成の試み」 金沢市立大徳小学校 山口 眞希 教諭 「地域と学校を架橋するフォト俳句の創作・鑑賞活動」 松山市立椿小学校 石田 年保 教諭</p> <p>講演「新学習指導要領と情報活用能力」 鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部 教職実践力高度化コース 准教授 泰山 裕 先生</p>

	<p>ワークショップ 「NHK for School×タブレット端末で2学期からの授業をバージョンアップ」 金沢市立大徳小学校 山口 眞希 教諭 「スタート!はじめてのタブレット」 松山市立北久米小学校 菅野 智雄 教諭 企業展示 最新の情報機器・ソフトウェア・デジタル教科書等の企業展示</p>
10月	<p>○事務局会 10月22日(月) 17:00～ 文教会館 研修会 反省と来年度の計画について 研究紀要について 研究論文について 実態調査について</p> <p>○第50回 放送教育研究会四国大会 香川大会 10月25日(木) 丸亀市立岡田小学校 丸亀市立綾歌中学校 提案発表 小学校部会 松山市立椿小学校 松本 真介 教諭 中学校部会 松山市立高浜中学校 安西 大地 教諭</p>
11月	<p>○研修視察 第44回 全日本教育工学研究協議会全国大会 川崎大会 11月9日(金)～10日(土) カルッツかわさき(川崎市スポーツ・文化総合センター)</p> <p>○第22回視聴覚教育総合全国大会 第69回放送教育研究会全国大会 合同大会(広島大会) 11月16日(金)～17日(土) 広島市立川内小学校 広島市立城山中学校 広島国際会議場 提案発表 小学校部会 松山市立椿小学校 松本 真介 教諭</p> <p>○第2回幹事会 11月19日(月) 15:30～ 文教会館 平成30年度視聴覚・情報教育研修会の反省について 研究紀要について 視聴覚・情報教育に関する実態調査について</p> <p>○研修視察 第67回 近畿放送教育研究大会 11月22日(木) 神戸市立井吹の丘小学校 神戸市総合教育センター</p>
12月	<p>○研修視察 Educational Solution Seminar 2018 in 栃木 12月26日(水) 小山市桑市民交流センター(マリベール館)</p> <p>○各支部からの研究紀要原稿提出 12月26日(水) 締め切り(事務局編集部宛)</p>
1月	<p>○平成31年度「研究の手引」の作成委員会 1月17日(木) 13:30～ 文教会館</p> <p>○事務局会 1月28日(月) 17:00～ 文教会館 視聴覚・情報教育に関する実態調査について 研究紀要原稿の校正について</p>
2月	<p>○第3回幹事会 2月18日(月) 15:30～ 文教会館 研究紀要原稿の最終校正について 年間活動の反省について</p> <p>○研修視察 新学習指導要領に向けて 変わる!自治体の教育ICT最新事例 2月20日(水) 阪急うめだホール</p> <p>○研修視察 D-project香川 冬の公開研究会 2019 2月23日(土) e-とびあ・かがわ</p> <p>○研究紀要 愛教研Webページへ掲載 2月28日(木)</p>
3月	<p>○研修視察 教育の情報化推進フォーラム 3月7日(木)～8日(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟</p>

平成30年度 愛媛県視聴覚・情報教育研修会

1 日時 平成30年8月8日(水) 9:30～16:00 (受付9:00～)

2 会場 松前総合文化センター (ふれあい展示室・視聴覚室)

3 内容

9:00～ 9:30	受付
9:30～ 9:40	開会行事
9:40～ 10:40	実践事例発表 「ICT機器を活用した授業 実践事例」 西条市立東予東中学校 教諭 相原 麻衣 「主体的・対話的で深い学びへの質的変換のためにICTを効果的に活用する児童の育成 ～教職員の情報活用能力向上の研修を通して～」 松山市立小野小学校 教諭 中本 孝一・教諭 若宮 磯一 「効果的なICT活用の実践～タブレット端末を活用した実践事例～」 西予市立皆田小学校 教諭 橋本 達哉
10:50～ 11:40	実践研究発表 「学級内SNSを活用したメディアリテラシー育成の試み」 金沢市立大徳小学校 教諭 山口 眞希 「地域と学校を架橋するフォト俳句の創作・鑑賞活動」 松山市立椿小学校 教諭 石田 年保
11:45～ 13:00	昼食・展示 (最新の情報機器・ソフトウェア・デジタル教科書等の展示)
13:00～ 14:20	講演『新学習指導要領と情報活用能力』 講師 鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部 教職実践力高度化コース 准教授 泰山 裕 先生
14:35～ 15:55	WS1 「NHK for School×タブレット端末で2学期からの授業をバージョンアップ」 講師 金沢市立大徳小学校 教諭 山口 眞希 WS2 「スタート!はじめてのタブレット」 講師 松山市立北久米小学校 教諭 菅野 智雄
15:55 ～16:00	閉会行事

(1) 実践事例発表

西条市立東予東中学校の相原 麻衣先生、松山市立小野小学校の中本 孝一先生、若宮 磯一先生、西予市立皆田小学校の橋本 達哉先生に、先進的な取組やすぐ実践できるようなアイデア満載の発表をしていただいた。今後もより一層教育の情報化が進む教育現場で必要なことを、発表を通して考えたり感じ取ったりする参加者も多かった。

実践事例は、「平成29年度 愛媛の情報教育 第23号(情報教育委員会研究紀要)」として、愛教研視聴覚・情報教育委員会のWebサイトに掲載している。

(2) 実践研究発表

① 学級内SNSを活用したメディアリテラシー育成の試み（概要）

小学校6年生の話合い活動におけるインターネット上でのコミュニケーションの様子を分析し、対面でのコミュニケーションと比較することで、どのような現象が見られるか、児童がSNSでのコミュニケーションをどのように捉えているかを明らかにした。その結果、対面で発言しなかった児童が、SNS上では投稿や返信コメントで考えを伝えていること、日常の発言頻度や対面の授業での発言数が多い児童ほど、SNS上での投稿や返信が多くなること、SNS上で共感を伝える行動は、対面での発言頻度に関係がないこと、SNS上でコミュニケーションをする相手と日常生活でよく関わっている相手については相関がないことなどが明らかになった。



② 地域と学校を架橋するフォト俳句の創作・鑑賞活動（概要）

松山は俳句の街であり、松山市立椿小学校の地域も俳句活動が盛んに行われている。しかし、児童の俳句に対する親和性はあまり高くない。もっと俳句に親しんでもらいたいという願いから、ICT及び地域文化や人材を活用したフォト俳句の創作・鑑賞活動を実践した。6年生が俳句を詠み、3年生が俳句に合う写真を撮影し、組み合わせフォト俳句を創作する。できあがったフォト俳句を、全校児童及び保護者・地域の方々と鑑賞会を行う。俳句と写真を組み合わせることで、写真が俳句の読みを補完したり、解釈の違いを顕在化したりして俳句の読みの可能性を広げるなど、いくつもの効果が見られた。また、本活動が新学習指導要領の社会に開かれた教育課程の一つのモデルとなったと考える。

(3) 講演

午後の講演では、鳴門教育大学准教授の泰山 裕先生を講師として招き、『新学習指導要領と情報活用能力』の演題でお話をいただいた。

前半では、新学習指導要領の方向性と、学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の定義や情報活用能力に含まれる内容の分類と体系表について解説していただいた。

情報活用能力を育成するために学校教育で想定される学習内容の中で「情報機器の操作技能」「情報モラル・情報セキュリティ」の他、頭の中での情報の操作方法を学ぶ「問題解決や探究における情報活用（プログラミングを含む）」は教科等の学習目標とも重なる部分があり、情報活用能力の定義は、「（頭の中で情報



を) うまく活用する力」と言い換えられるという話であった。また、「子どもに身に付けるべき思考力・考える力とは？」という質問をフロアに投げ掛けられ、暫く考える時間を設けられた。フロアからの回答を受けた後、授業中の「思考スキル」は19種類に分類できること、学習指導要領において、各教科の指導の中で「思考スキル」を指導し習得させること、「情報活用能力の思考力・判断力・表現力」は「考えるための技法」を用いて情報を整理する力を育成することが掲げられているということを説明された。

後半では、「考え方」を示し補助するためのツールである「思考ツール」についての解説があった。例題を基に演習を行った後、思考ツールには20数パターンのものであり、どの場面でどのツールを使えば有効かは、どんな思考を求めているかによって変わり、授業の目標に合わせて選択するとよいことや、思考ツールは思考スキルとセットで用いることが必要という説明があった。

思考スキルの一覧

授業の中の「考える」の種類

多面的にみる	変化をとらえる	順序立てる
比較する	分類する	変換する
関係づける	関連づける	理由付ける
見通す	抽象化する	焦点化する
評価する	応用する	構造化する
推論する	具体化する	広げてみる
要約する		



最後に、大阪市の公立小学校での思考ツールの活用場面の事例紹介があり、「情報活用能力育成に向けた授業づくり」の要点として、①何ができるようになっていれば教科学習が進むか(どんな子どもを育てたいのか)を見つける、②情報を活用する必要がある(せざるを得ない)状況を作り出す、③そのために必要になる知識・技能を教科の中で指導する、の3点が肝要であるということを説明していただいた。

(4) ワークショップ1・2

① WS1 「NHK for School×タブレット端末で2学期からの授業をバージョンアップ」

金沢市立大徳小学校の山口 眞希先生に「メディアタイムズ」の「第3回写真はありのままを伝えている？」を使ってワークショップを行っていただいた。「メディアタイムズ」を全体で視聴して、写真の撮影技法について理解を深めた。また、写真の加工はどこまで許されるのかという番組の問いかけについて参加者全員で考えた。心情円グラフを活用した対話方法についても学ぶことができた。

その後、参加者3人組で1枚の写真にキャッチコピーを付けて1つの商品をアピールするワークショップを行った。タブレット端末を活用し、写真にキャッチコピーを入れたポスター制作を行った。最後にできた作品を全員で作品を鑑賞した。最後に、観光用パンフレット作成の実践の紹介を通して、映像表現活動における児童の学びについて考えた。



② WS2 「スタート！はじめてのタブレット」

松山市立北久米小学校の菅野 智雄先生に、タブレット端末の初級編のワークショップを行っていただいた。児童が初めてタブレット端末を使うとき、どんな授業をすればいいのか、簡単なスキルで「主体的・対話的で深い学び」を実現するにはどのように活用したらいいのかを、模擬授業を通して考えていった。

模擬授業1では、グループごとのチーム名を相談し、タブレット端末を利用してみんなに紹介する活動を行った。「撮る・書き込む・見せる」という基本的な操作方法を学んだ。グループのメンバーの共通点を見付けようと話し合ったり、協力してタブレット端末の操作をしたりすることで、自然と話し合い、教え合う姿が見られた。

模擬授業2では、学習支援ソフトウェアの機能を使って、かさクイズを作ったり、平行四辺形のかき方を説明したりした。算数の練習問題もタブレット端末を活用すれば意欲的に学習し合えることや、相手に分かりやすく説明するには何をポイントにしてスライドを作ったらいいかを、タブレット端末とグループのメンバーと触れ合いながら学んでいった。

最後に、タブレット端末を活用したミニ実践事例紹介を行った。今日体験した「撮る・書き込む・見せる」という簡単な機能を活用することで、児童の主体的・対話的で深い学びにつながる授業ができるというイメージを膨らませることができた。



4 アンケート結果（参加者の声）

(1) アンケート結果

(アンケート 55 人回答) 事例発表について・・・	とてもよい (67%)	よい (33%)
(アンケート 58 人回答) 講演について・・・	とてもよい (71%)	よい (29%)
(アンケート 44 人回答) WS 1 について・・・	とてもよい (75%)	よい (25%)
(アンケート 17 人回答) WS 2 について・・・	とてもよい (82%)	よい (18%)

(2) 参加者の声

- ・ 簡単にタブレット端末が使えることが分かったのでよかった。
- ・ たくさんの実践事例を聞いたり、その資料をもらったりしたので、授業に生かしたい。
- ・ 具体的な内容で、とても分かりやすかった。2学期から、タブレット端末を子どもたちと使ってみる。
- ・ できることから実践していこうと思う。分かりやすい説明等で、少しだけ実践意欲がわいた。

- ・ 実際に活用できるようなワークショップ型を取り入れてくれてありがたかった。とても分かりやすかった。思考ツールに関する話が、これから子どもたちに考えさせるときに活用できそう。自分の中の「考える」について、そのときそのとき明確にしていきたいと思う。
- ・ 実践できて楽しくやることができた。子どもが主体的に考えることができるので、タブレット端末のよさを生かした授業を行いたい。
- ・ 「考える」ということについて、改めて考える機会を与えていただいた。
- ・ 学校にはタブレット端末は無く、導入するまでなかなか遠い道ですが、今後も情報を集めていきたいと思う。
- ・ 様々な取組を知ることができてよかった。石田先生の発表が楽しかった。心情円盤も使いたい。
- ・ ワークショップの広告作りは子どもたちにやらせても、本当に喜んで取り組むだろうなと思った。
- ・ 子ども目線に立って実習する時間もあり、実用的な内容で自分にできることがからやってみようと思った。
- ・ 子どもが興味をもつ導入に、必要感をもつ場の設定に役立てたいと思いました。
- ・ シンキングツールをうまく利用することで、話合いの質を向上させることができると思った。
- ・ 思考ツールを使って、考えの補助をするという視点が勉強になった。
- ・ 今回の研修の内容の中で、本校で検討している「思考」について、勉強になった。めあてを明確にして、思考ツールを上手く使っていきたいと思う。
- ・ 学校によって、端末のOSが異なると思うので、両方の端末のよい点や使用の違いなどを知りたい。
- ・ 各実践事例についての資料があった方がよい。
- ・ タブレット端末の事例についても参考となるアプリなど、紹介をして欲しい。
- ・ 県の研究として、アプリ（活用できる）の研究をして、広く伝えて欲しい。
- ・ 授業で使えるアプリ集などを教えて欲しい。

1 ICT機器の導入に関する研修

(1) ソフトウェアモニター利用に伴うICT研修会

- ① 日時 平成30年8月30日(木)
- ② 場所 四国中央市立三島東中学校 コンピュータ室
- ③ 参加者 四国中央市内小・中学校情報教育主任
- ④ 研修の概要

ア 目的

今後の学校のICT環境整備に係る指針決定の材料として、業者による問題データベース及び映像データベースソフトウェアをモニターとして2学期に使用するにあたり、業者の担当者より説明を受け、各校での効果的な活用につなげる。

イ 内容

- ・ 周辺自治体における導入コンテンツの説明
- ・ 問題データベース並びに映像データベースの内容及び使い方
- ・ 実習

(2) 四国中央支部各校におけるソフトウェアモニター利用に伴うICT校内研修

【研修例】四国中央市立土居小学校における校内研修

- ① 日時 平成30年9月5日(水)
- ② 場所 四国中央市立土居小学校 職員室
- ③ 研修の概要

ア 目的

上記のICT研修会の内容を本校教職員に伝達すると共に、ソフトウェアの使い方や活用方法についての実習を行い、各教職員の効果的な活用につなげる。

イ 内容

- ・ 四国中央市の視聴覚・情報教育を巡る動向について
- ・ 問題データベース並びに映像データベースの内容及び使い方
- ・ 実習

職員室内にプロジェクタを設置し、画面を提示しながら研修を行った。また、参加した教職員は、それぞれのコンピュータからソフトウェアにログインし、実際に操作を体験しながら説明を聞けるようにした。実習後半には、自由に操作する時間を設け、各々の興味やニーズに応じた機能について研修を深めることができた。

2 視聴覚・情報教育委員会での研修

四国中央支部では、平成31年1月11日(金)に、四国中央市内の情報教育主任を対象とした四国中央市視聴覚・情報教育委員会を開催し、現在配置されているICT機器の効果的な活用方法について研修した。この研修会では、四国中央市教育委員会や四国中央市校長会から講師を招聘し、授業のユニバーサルデザイン化における視覚化の事例紹介や電子黒板の有効な活用方法、昨年度の電子黒板活用リストを用いての研修などを行った。

3 成果と課題

今年度は、ICT機器の導入について行政との意見交換を進めることができた。四国中央市は、他市に比べて情報機器の整備が遅れている実態があるが、現在配置されている情報機器を最大限に生かしながら、児童生徒の学びにつながるよう研修を深めていきたい。

1 はじめに

新居浜市では、ノートパソコンやプロジェクタ、実物投影機などの配備が進み、授業を中心とした学習場面で、ICT機器の活用が積極的に行われている。先日実施した、「平成30年度視聴覚・情報教育に関する調査」によると、市内の小・中学校合わせて8割以上の教職員がICT機器を活用した授業をしているとの結果も出て、意識の高さがうかがえる。また、タブレット端末については、その利便性や有用性が注目され、全国で活用されているなかで、市内でも活用している教員が増えてきている。そこで、新居浜市情報教育研究委員会では、今年度の夏季休業中に、教職員を対象にタブレット端末の研修を行った。

2 教職員研修について

- (1) 研修会名 「平成30年度 新居浜市情報教育同好会 タブレット端末研修会」
- (2) 日時 平成30年8月24日（金）
- (3) 会場 新居浜市立新居浜小学校
- (4) 参加対象 新居浜市立新居浜小学校及び新居浜市立金子小学校の教職員・市内の小・中学校の情報教育主任
- (5) 内容

タブレット端末を用いた実践を行っている新居浜小学校及び金子小学校の校内研修との共催で、新居浜市内の小・中学校の情報教育主任を対象に参加を呼び掛け、研修会を行った。この研修会では、Sky株式会社より講師を招聘し、タブレット端末にて学習活動ソフト「SKYMENU Class 2016」を活用して学習を行う方法を教えていただいた。授業で使えるカメラ機能や動画の同時再生機能、発表資料を画面で共有するやり方など、便利な方法を学ぶことができた。新学習指導要領で目指すべき方向の一つである、「主体的・対話的で深い学び」となる学習活動に役立つものであった。今回学んだことを、各校に持ち帰って、校内での研修に役立ててもらおうようにしている。



3 おわりに

今年度、新居浜市で夏季研を開くことで、タブレット端末の有用性について再認識することができた。新居浜市内でもタブレット端末を活用する教員が少しずつ増え、活用への意欲も高まっている。また、ノートパソコン、プロジェクタ、電子黒板等を使った授業が日常的に行われ、ICT機器の活用は総じて進んでいるといえる。一方で、ICT機器を活用している教員は多いが、環境が整っていないという課題がある。例えば、プロジェクタや実物投影機が学級に1台ずつない学校や、それらが配備されていても配線等の手間が掛かり十分に活用できない学校がある。また、タブレット端末については、依然として一部の学校にしか配備されておらず、教員が自己負担で購入し、授業で使用している現状もある。さらに、配備されていても、有効なソフトウェアが搭載されていない学校もある。誰もが使いやすいICT環境を目指して、環境整備が今後必要不可欠である。

最後に、プログラミング教育については、「もっと研修したい」という声が多数あり、研修の必要性を感じた。来年度、市内で研修する機会ができるよう提案していきたい。今後も、ICT機器活用の研究や教職員の指導力向上に向けた研修会の充実に努め、情報交換の充実に図っていきたい。

西条支部

1 研究目標

学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む指導の工夫
～効果的なICTの活用を通して～

2 情報教育部会研修会

- (1) 日時 平成30年11月16日 (金)
- (2) 会場 西条市立東予東中学校
- (3) 内容

① 公開授業の参観

学年・組	教科	単元名	授業者
1年3組	理科	身のまわりの現象	藤本 一樹
2年2組	英語	助動詞を用いた活動	青木 沙耶花
3年4組	国語	説得力のある文章を書こう	長谷部 真由美

- ② 研究発表、質疑応答
- ③ 指導助言、講演 (東京学芸大学教育学部教授 川崎 誠司 先生)

3 研修会の概要

- (1) ICTを活用した研究授業



英語の授業の様子



国語の授業の様子

- (2) 研究発表、質疑応答、意見・感想

- ・ 国語の授業を参観させていただいた。課題を焦点化したり、考えを共有化したりする上で、ICTが効果的に活用されていたと思う。
- ・ 理科の分科会に参加した。ICT機器が効果的に活用されており、生徒の理解の促進、学び合い学習をするための時間の確保ができていた。大変参考になった。

- (3) 指導助言、講演

- ・ アナログとデジタルのすみ分けが大切である。
- ・ ICTを活用した場合、指導者も生徒も考えた気になりやすい。教師は「何を考えさせて」「何を教えるのか」をよく考えて授業改善をする必要がある。



講演の様子

1 研究目標

教育の情報化を目指し、教育メディアやICTの効果的な活用による学習指導の充実と実践について研究する。

2 研究の充実に向けて

(1) 研究推進

- ① 情報機器やネットワーク、教育メディアを活用した多様な教育
- ② コンピュータやインターネットに関する正しい知識やそれらを活用する技術
- ③ ネットワーク上のルールやマナー等の情報モラルの育成
- ④ 校務の情報化の推進

(2) 研究計画の立案

- ① 研修の在り方について
- ② 情報教育夏季実技研修会について
- ③ 情報教育委員会研究紀要の作成について
- ④ 情報の管理について

3 視聴覚・情報教育研修会

(1) 今治市教育研究所研修委員会

- ① 期日 平成30年5月7日(月)
- ② 会場 今治市立別宮小学校
- ③ 内容 研修計画の討議

(2) 視聴覚・情報教育夏季研修会

- ① 期日 平成30年8月2日(木)
- ② 会場 今治市立乃万小学校
- ③ 内容 新しいWebページの構築と運用について
 - ・ 教育センターの出前講座を活用し、CMSを利用した新しいWebページの構築と運用に関して、実際のWebページを作成しながら学び、スムーズな運用ができるように準備する。

4 成果と課題

- (1) 視聴覚・情報教育は、今年度より一つになって研修を進めていくことになった。今年度の研修については、昨年度、教育センターの出前講座を活用して、新しいWebページの概要についての説明を受けて好評であったが、実際の新しいWebページの構築については、学校によって進捗状況に差がある。今年度は、研修会の中で実際のWebページを構築したり、構築しているものを修正したりすることで、各学校がWebページをスムーズに構築と運用ができることを目的に実施した。研修会の中で、各校の担当者がWebページの内容について意見を交わしたり、疑問に思うことを実際にページの操作をしながら講師に尋ねたりすることで、新しいWebページを構築することができ、有意義な研修となった。
- (2) Webページの扱いや、校内での情報の管理についての研修をより深めるため、情報教育主任会等で情報交換をしていく必要がある。

松山支部

松山支部では、松山市視聴覚教育主任会及び松山市教育委員会からの委託を受け、小学校情報教育研究委員会・中学校情報教育研究会を組織して、視聴覚教育・情報教育の研究を推進している。研究委員は、松山市内各小・中学校情報教育担当者（中学校では研究員も含む）と松山市教育委員会担当で組織している。

また小学校・中学校合同での情報教育研究委員会の開催や、ミライム（グループウェア）開発委員会、お互いの研修会や授業研究会への参加など、小学校・中学校の間で連携して取組を進めている。

1 教員研修について

〈松山市視聴覚教育主任会〉

視聴覚教育夏期実技研修会を開催し、主に放送機器の操作や整備について研修を行った。運動会や儀式等での大掛かりな準備作業に不安を感じている若年教員も多く、経験豊富なベテラン教員を講師に、実際に機器を組んでみるなどして理解を深めた。

- (1) 日時 平成 30 年 7 月 24 日（火） 14：30～16：30
- (2) 場所 松山市立荏原小学校
- (3) 内容 実技研修（機器の接続方法・フォトムービーづくり）

〈小学校情報教育研究委員会〉

平成 17 年度から、情報教育研修会を 7 月下旬から 8 月上旬に開催している。毎年多くの小学校教員が参加しており、研究委員会が主催する中心的な教員研修である。講師として放送大学教授中川一史氏を招き、最新の情報教育に関する情報や理論を教授していただいている。また、中川氏が主催するメディア表現研究会（D-project2）からの協力を得てワークショップを開催するなど、充実した研修プログラムを組むことができおり、年々参加希望者が増え、好評を得ている。一昨年度より、中学校情報教育研究委員全員の参加もあったため、参加者が 200 名を超える大規模な会となってきた。

- (1) 日時 平成 30 年 8 月 1 日（水） 9：30～16：00
- (2) 場所 愛媛大学、松山市立湯築小学校、松山市立東雲小学校、松山市教育研修センター
- (3) 内容

ア 全体会

(ア) 講演 I 「新学習指導要領と情報教育」

放送大学 中川 一史 教授

(イ) 実践事例セッション

「昨年度の研究の取組から」

発表者：松山市立姫山小学校 中本 孝一 教諭
若宮 磯一 教諭

「NHK for School を活用した授業実践」

発表者：金沢市立大徳小学校 山口 眞希 教諭

「中学校理科でのタブレット端末の活用事例」

発表者：岩見町立岩見中学校 岩崎 有朋 教諭

(ウ) 講演 II 「今求められるプログラミング教育の実践

－ 3 つの授業パターンを意識する－

茨城大学 小林 祐紀 准教授

イ 分科会（6分科会）

A：「情報モラルって何だ？」

～子どもたちをネット上のトラブルから守るために私たち教員ができること～

B：「『SKYMENU』ってどう使うの？」

～いまさら聞けない「SKYMENU」の初歩的な使い方～

C：「教室にタブレット端末がやってきた」～先生が活用するタブレット端末～

D：「NHK for School×タブレット端末で2学期からの授業をバージョンアップ」

E：「プログラミング教育って何だ!？」

F：「新聞教材活用プロジェクト」

小学校情報教育研究委員会では、7月末の第2回総会において、「情報教育研修会」に向けて研究委員対象のタブレット端末の授業における活用研修を行った。タブレット端末の活用事例の紹介や今後の活用場面の話し合いを行うとともに、Microsoft（株）の太田泉氏に講師をしていただき、意義ある研修となった。この総会の研修は、情報教育研修会の事前研修としても有効であり、それぞれの分科会で講師やファシリテータ、補助となった研究委員は、自信をもって指導にあたることができた。

〈中学校情報教育研究委員会〉

今年度も夏期に小学校情報教育研究委員会の情報教育研修会に参加した。情報教育の小中連携を深める上で有意義な研修となった。また、松山市内の中学校全教職員の中から希望者を募り、「ICT活用基礎講座」を開設した。開設された講座は以下のようなものであり、少人数ではあったが、コンピュータを苦手とする教員のサポートができる貴重な研修となった。

ア Microsoft Word の基礎

イ Microsoft PowerPoint の基礎

ウ Microsoft Excel の基礎

〈各校の校内研修への協力（小学校・中学校共通）〉

小中学校とも松山市教育研修センターが主催する研修会に協力する形で、各学校に幹事を講師として派遣し、校内研修会の支援をするという取組を、夏季休業中に行っている。今年度も多くの学校がICT機器の授業での活用に関する研修を希望しており、多くの教員を派遣した。小学校では昨年度より教室へタブレット端末導入が行われてきていることもあり、タブレット端末の授業活用を想定した意義ある研修を行うことができた。

2 授業研究会について

小・中学校の情報教育研究委員が参加し、授業研究会を開催した。今年度は道後小学校・鴨川中学校で次のような内容で実施し、研究協議・意見交換を行った。小・中学校での情報交換も行うことができ、有意義なものとなった。

（1）小学校情報教育授業研究会

① 日時 平成30年11月1日（木） 13:30～16:30

② 場所 松山市立道後小学校

③ 内容

学年・組	教科等	単元（題材）名
1年3組	国語科	うみへのながいたび
4年2組	算数科	面積
6年3組	図画工作科	鑑 show 会 ～アートコロンタイムをしよう～

(2) 中学校情報教育授業研究会

① 日時 平成 30 年 11 月 14 日（水） 13：10～16：10

② 場所 松山市立鴨川中学校

③ 内容

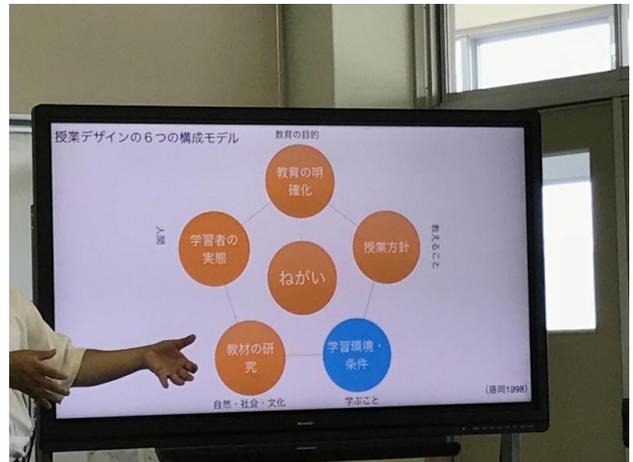
学年・組	教科等	単元（題材）名
1年2組	学級活動	人生の木 ～自分を見つめ直し、良いところや適性を将来どのように生かすかを考えよう～
2年全学級	総合的な学習の時間	社会で働く人々から学び、職業の多様性や働くことの意義を考えよう
3年2組	英語科	Chapter 3 Project 尊敬する人についてスピーチしよう

3 今後の課題

- ICTのさらなる有効活用と指導技術の向上（校内研修の充実）
- 児童生徒の発達段階や、一人一人の実態に即した支援のあり方
- 情報モラル及び情報安全教育の強化等、カリキュラムの改善
- 児童生徒自身が情報社会に主体的に参画する態度の育成
- 各校におけるグループウェアの運用とルールの徹底
- ICTを活用した授業研究のさらなる推進
（無線LANとタブレット端末を使った主体的・対話的で深い学びの推進のための研究）
- 小中連携への取組

1 教職員研修（夏季実技研修会）について

平成 30 年 8 月 3 日、東温市立南吉井小学校において、情報教育委員会・視聴覚教育委員会合同夏季実技研修会を行った。研修会は、「知らないと損をする！NHK for School のこんな機能×タブレットで楽しい授業」と題して、松山市立椿小学校 石田年保教諭に講師を依頼した。参加者は 16 名であった。

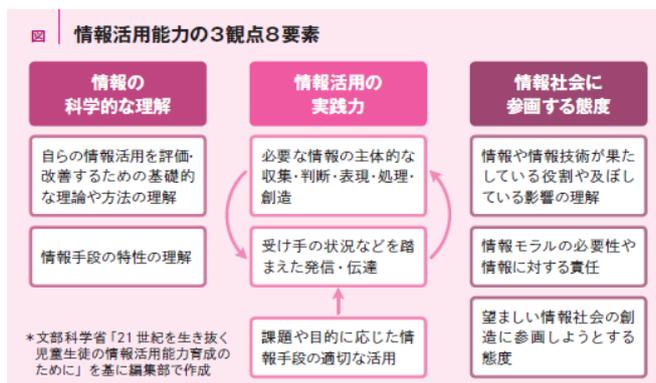


授業デザインの6つの構成モデルは、教育の明確化、学習者の実態、教材の研究、学習環境・条件、授業方針、そして、ねがいがあげられる。



「松山市に住んでいる、18歳の女性で、血液型がAB型の人はいくらいるか。」という問題を解く。それぞれが、検索ワードを使ったり、「Google マップ」を使ったりして、答えを導き出す。そのためには、計算の仕方、読み書き、コンピュータ・リテラシーなど、多様な力が必要である。それぞれの仕方で、約0.6人程度あることが分かった。どのように問題解決をするか、その道筋の基礎をしっかりと学ばせておかなければならない。

タブレット端末を使って、側方倒立回転や、ロンダートの学習をした。児童の「学び」に適した使い方をすることで、児童の力を伸ばすことができる。児童の「学び」へ向かう力を伸ばすために、支援が必要である。



深い学びとは、知識（宣言的な知識）・技能（手続き的な知識）が、関連付けて構造化されたり、身体化されたりして、高度化し、駆動する状態に向かうことである。こういうことが起こるときに充実感・達成感・自己有用感・一体感が生まれる。そして、人生や社会に生かす新たな学びに向かう力が生まれ、人間性が育まれていくということをお話ししていただいた。

その他、「NHK for School」の活用の仕方について、動画の効果的な活用の方法を教えていただいた。

2 課題

タブレット端末のカメラ機能を使った学習をすることは簡単であるので、アイデアを生かして、楽しい授業を作っていかなければならない。児童の実態に合ったものでないと、機器を使っただけでは、学習が成立しない。教材研究を重ね、アナログを積み重ねた上でのタブレット端末の活用で、子どもの学力を伸ばしていくことが大切である。

1 教職員研修について

(1) 研究主題

「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践」
—教育の情報化の推進を通して—

(2) 努力目標

- 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等において、教育メディアの特性を生かした授業改善に努め、児童生徒の「生きる力」を育成する。
- 高度情報通信社会に主体的に対応できる情報活用能力の育成

2 夏季実技研修会及び主任会

今年度の情報教育夏季研修会は広教（広島県教科図書販売株式会社）の清水明様を講師に迎えて、情報モラル教育の課題と情報モラル学習用ソフトウェア「Netモラル」の活用についての研修を行った。

(1) 期日 平成30年8月21日（木）13：30～16：00

(2) 会場 伊予市立北山崎小学校

(3) 内容

夏季実技研修会においては、「情報モラル教育の実際と学習用ソフト『Netモラル』の活用について」というテーマで、現在の急速に広がる高度情報通信社会の中で、児童生徒を有害な情報や誤った情報機器の利用からどのようにして守っていくかということについて研修を行った。



3 成果と今後の課題

今年度より、視聴覚教育委員会と情報教育委員会の統合が本格的に始まったことを受け、努力目標もそれぞれの特性を踏まえたものとした。視聴覚教育、情報教育の個々の視点だけでなく、互いの特性を生かせるように研修を進めることができた。

インターネットに接続できる機器が増えて便利になった反面、これまでの大人が経験したことがないような多くの情報に子どもたちはさらされている。その中で、学校として取り組むべき情報モラル教育の在り方や、情報モラル教育を全ての教員が行うことができるようにするために有効な学習ソフトウェアの使い方について学ぶことができた。今後、本研修で学んだことを、各学校で広め、情報モラルについての学習を各学校の教育課程に位置づけることが必要である。また、児童生徒に正しい知識を伝えたり、安全にインターネットを活用できる力を育てたりするために、教職員が、ICTへの理解を深め、学習に活用するためのICT活用力の向上につなげたりする取組が重要である。

視聴覚・情報教育については、環境面の充実を図りつつ、担当者だけでなく多くの教員が積極的に学習に活用できるよう働きかけることが必要である。

1 はじめに

上浮穴支部では、支部内全ての小・中学校にタブレット端末が導入される予定である。そのため、各学校ともタブレット端末をどのように授業に活用していくのか研究を進めなければならない。また、支部内の多くの小学校に複式学級があり、複式学級での授業に、どのようにICT機器を活用すれば効果的かという課題もある。そこで、タブレット端末を先行導入している学校において授業実践を行った。

2 実践事例（久万高原町立明神小学校）

（1）タブレット端末を活用した授業実践

明神小学校は、全校児童にタブレット端末が整備されている。また、教員機も2台あり、これらを活用して主に算数科においてタブレット端末を活用した授業実践を行った。

まず、問題提示の場面において、モニターや黒板に提示したものと同じものを、児童はタブレット端末で確認できるようにした。こうすることで、一人一人がすぐに思考する場面へ移行できた。次に、一人一人が考えたことや問題解決への手順をタブレット端末に書き込むようにし、それらを集約して、比較したり拡大したりして集団思考の場に活用した。また、タブレット端末を持ち寄って、考えを伝え合う場面も見られた。

これらの授業実践を支部内の教職員にも公開することで、タブレット端末を活用した授業例として参考になった。



（2）複式学級での授業におけるタブレット端末の活用

複式学級での授業においては、授業者が二つの学年を行き来しなくてはならない。そのため、片方の学年に、授業者を待っている間接指導の時間をどのように活動させるかが課題となる。そこで、本時の問題に入るまでの間、タブレット端末からインターネット回線を利用した学習ソフトを活用した。このソフトは、単元別に問題が構成されており、前時までの内容を復習することができる。授業者を待つ間接指導を児童は有効に活用できるようになった。

3 成果と課題

タブレット端末が整備されても、どのように活用していけばよいか不安の声が聞こえてきていたが、今回授業での活用事例を示すことができたので、来年度からの導入に向けてイメージが持てたのではないかと考えられる。しかし、タブレット端末だけでは授業改善には結びつかないので、有効なアプリケーションの選別、周辺機器の整備等の課題が挙げられる。

1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践

2 教職員研修

(1) 大洲市教育研究所総会

- ① 日 時 平成 30 年 4 月 18 日 (水)
- ② 場 所 大洲市民会館、大洲市立大洲小学校
- ③ 内 容
 - ア 役員選出
 - イ 研究主題
 - ウ 活動内容について
 - エ 情報交換

(2) 大洲市学校情報教育推進協議会

平成 28 年度より、「大洲市学校情報教育推進協議会」を設置し、委員が数回集まり、校務支援システム更新に伴う学校現場からの要望をまとめたり、今年度新しく導入された学校用グループウェア「ミライム」の操作説明会を行ったりしてきた。11 月から新しい校務支援用のコンピュータが導入され、新システムの操作説明会を各小・中学校で行うだけでなく、担当者別にも下記のような研修を行った。

- ① 教頭、教務主任対象研修
 - ア 「ミライム」活用（スケジュール機能の活用、掲示板機能、アンケート機能）
- ② 進路指導主事研修
 - ア 「らくらく校務支援システム」の活用
 - イ 調査書・学習成績一覧表作成機能の周知 私立学校調査書書式作成依頼
- ③ 情報教育主任対象研修
 - ア 「ミライム」活用（学校日誌作成機能の周知、アンケート機能の紹介）
 - イ 「らくらく校務支援システム」の活用（出席簿、指導要録、通知表）
 - ウ 市内共有フォルダ活用
 - エ 情報セキュリティ
- ④ 養護教諭対象研修
 - ア 「らくらく校務支援システム」の活用（保健日誌作成機能、保健通知）

3 成果と課題

今年度から新しいコンピュータを導入するにあたり、今までの校務支援ソフトの見直しや改善について、大洲市学校情報教育推進協議会が中心となって話し合いを行ってきた。しかし、学校用グループウェアや校務支援システムの機能を十分に活用できていない現状があり、従来の情報教育主任のみの研修では不十分である実態が分かった。そのため、今年度は担当者別の研修を実施することで、今まで活用されていなかった機能を学校で活用できるように研修を行った。その結果、新システムの活用が、今まで以上にスムーズに進み、校務を滞りなく遂行できる職員が増えてきた。しかし、まだまだすべての職員が十分に活用できているとは言えない。大洲市学校情報教育推進協議会の部会別研究内容の周知徹底を図るとともに、今後も研修の場を提供し、校務支援システムの十分な活用方法を考え、校務の情報化を推進していきたい。

1 研究主題

「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践」

2 情報教育技術研修会

(1) 期日 平成 30 年 8 月 24 日 (金)

(2) 会場 内子町立内子中学校 コンピュータ教室

(3) 講師 愛媛県総合教育センター情報教育研究室 長期研修生 川野 博章 他

(4) 研修内容

① プログラミング学習の実技研修

ア 新学習指導要領が示すプログラミング教育の概要

小・中学校の学習指導要領の改訂に伴って、プログラミング教育の位置付けについての研修を行った。特に小学校のプログラミング教育の在り方について、文部科学省の資料や未来の学びコンソーシアムなどの Web ページを紹介していただき、知見を深めることができた。

イ プログラミング教育の「5W1H」

「いつ？」 小学校は各教科、中学校は技術科、高校は情報に関する科目。

「どこで？」 小学校では必修だが単元は学校で適切に配置。中・高校は教科としての位置づけ。

「だれが？」 授業担当の全教職員 「だれと？」 外部講師も活用

「何を？」 ツールは様々である。(アンプラグド→ビジュアル型→計測・制御ロボット→構文型)

「どのように？」 小学校では従来の資質・能力とプログラミング的思考が伸びるように。中・高校では教科の目標が達成されるように。

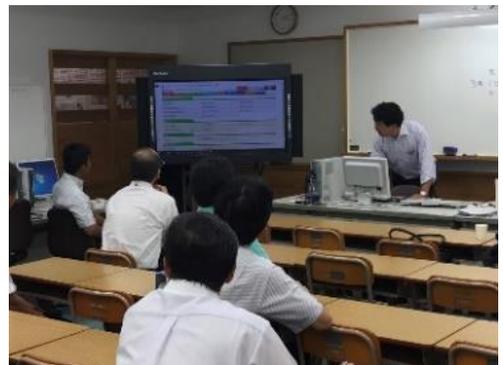
ウ プログラミング実習、指導事例紹介

ビジュアル型プログラミングソフトとして、「Scratch」を紹介していただき、実習を通してその操作方法を研修した。算数の図形の学習につながる指導方法も紹介していただくことで、どのようにして小学校の授業に取り入れていくのか考えることができた。

② 校務支援システム「Te-Comp@ss」および「ミライム」の実技研修

ア 校内支援システムの研修

喜多郡では今年度より校内支援システムを導入し、成績処理や事務作業の効率化に努めている。しかしながら、導入初年度ということもあり、1学期の学期末処理ではシステムの操作方法等で疑問が生じたり改善の要望が出たりした。そこでこれらの疑問や改善要望を各校で持ち寄り、「Te-Comp@ss」を管理していただいている文溪堂の方と研修を進めた。疑問を1つずつ解決していきながら、さらに便利な使用方法も教えていただいた。



イ 「ミライム」の研修

校内支援システムと同様に、今年度より「ミライム」も導入している。学校間・学校内での連絡に加えて、アンケート調査など様々な場面での活用が期待されている。校務負担の軽減に少しでもつながるように、効率的な使用方法について詳しく教えていただいた。

3 成果と今後の課題

今回の研修会を通して、教職員自身が情報活用能力の向上を図っていくことの大切さを改めて実感した。そのためにも、プログラミング教育やソフトウェア・ツールがどのようなものか知り、継続的に関わっていくことが第1歩であると考え。これからも時代のニーズに応えた情報教育の研修に努めていきたい。

1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む研究と実践 —教育の情報化の推進を通して—

2 実践活動

(1) 市教育研究集会

- ① 日時 平成 30 年 4 月 12 日 (木) 14:50～16:40
- ② 場所 八幡浜市立八代中学校
- ③ 内容
 - ア 役員選出
 - イ 今年度研究主題について
 - ウ 研究計画の作成

(2) 夏季実技研修会

- ① 日時 平成 30 年 8 月 9 日 (木) 13:30～15:00
- ② 場所 八幡浜市立八代中学校
- ③ 講師 愛媛県総合教育センター
情報教育室 谷山 信司 先生
情報教育室 渡部 浩二 先生

④ 内容

ア 情報モラル教育について

新しい情報を入れながら指導に役立つことが大切である。子どもたちに考えさせたり、家庭でのルールづくり等の機会を提供したりするのも学校における情報モラル教育である。

イ 情報セキュリティについて

セキュリティに万全はない。できる限りの対策を行うことや教職員一人一人の実践力が大切である。

ウ 著作権について

法律をよく理解し、「侵害している権利は何か」、「著作権の制限規定はあるか」などを考えることが大切である。



3 成果と課題

今年度は、愛媛県総合教育センターより講師を招いて研修を行った。個人情報への扱いやセキュリティに対する意識向上を図るとともに、情報モラルへの理解を深めることができた。研修内容を各校で伝達し、研修に努めていくことが必要である。

課題として、電子黒板やタブレット端末等の機器が、各校徐々に備わってきているが、まだまだ十分とは言えない現状がある。そのため、各学校や個人によって活用状況の差が見られる。今後は、授業や活動における情報機器のニーズをまとめていくとともに、タブレット端末等の ICT 機器の効果的な活用について研究や研修を積み重ねていきたい。

1 はじめに

西宇和支部は、小学校6校・中学校3校の計9校で構成されている。平成29年度に小学校のPCルームが整備され、電子黒板とiPadを併用した授業が行われている。中学校では、普通教室にホワイトボード型の移動式電子黒板が導入され、今後PCルームの環境整備を行う予定である。

2 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践

3 教職員研修会

(1) 第1回情報教育委員会

期日 4月12日(木)

会場 伊方町立伊方中学校

参加者 情報教育主任・顧問

内容 役員選出・30年度の研究主題について・研究計画の作成

(2) 第2回情報教育委員会

期日 7月26日(木)

会場 伊方町立伊方小学校

参加者 情報教育主任・顧問・希望者

内容

① 実技研修

「NetCommons3による学校Webページ構築研修」

講師 教育センター情報教育室

Webページの作り方を丁寧に教えていただき、新しいWebページの構築につなげることができた。

② 情報交換

中学校のPCルームに設置する機器の希望を、教育委員会に聞いていただき、来年度以降の導入の参考になった。



4 今後の課題

校務をスムーズにする機器は導入されたが、中学校で授業に使用するICT機器導入が遅れているので、小・中が一体となった導入をして欲しい。

学校Webページが全学校新しくなったが、各校ごとに研修をし、スムーズな運営ができるようにすることが課題である。



1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践
—教育の情報化の推進を通して—

2 研究内容

- (1) 日時 平成 30 年 7 月 31 日 (火)
- (2) 会場 宇和中学校 P C 教室
- (3) 研修

① プログラミング実技研修

久保田温教諭を講師に、「Scratch」を使った実技研修を行った。

- ア 道から外れない車
- イ 正多角形を描く(正方形、正五角形等)
- ウ アニメーション
- エ 「mB o t」の紹介

② i P a d のアプリ紹介

市情報教育コーディネーター國広達也氏を講師に、現在各校の i P a d に搭載されている様々なアプリケーションの特徴や使い方等について紹介を受けた。

- ### ③ 学校ホームページ新システムへの移行について
- 情報教育委員長が、学校ホームページ新システムの申請や作成の方法について講義を行った。



<「Scratch」の実技研修>



<i P a d のアプリ紹介>

3 成果と課題

(1) 専門研究委員会研修会について

- 2020 年度から始まるプログラミング教育においては、現在様々な方面で研究が進められているが、ほとんどの場合、使用されている言語は今回の研修で使用した「Scratch」である。何から始めてよいのか分からない会員が多い中、説明を受けながら実際に体験できたことの意義は大きい。西予市内で先進的に研究されている教職員の多くは退職間近のベテランであるため、2020 年度に向けて会員全員で研究を進めていきたい。
- 市内小・中学校においては、授業への I C T 活用が進み、iPad の使用頻度が高まってきている。しかし、実際に使っているのはごく一部のアプリに留まっているのが現状であるため、今回紹介を受けたものをはじめとした様々なアプリの授業への活用について、研究を進めていきたい。
- 学校ホームページについては、2019 年度末をもって新システムへの完全移行となる。旧システムからのデータの引き継ぎ等はできないため、早めの取組が必要であることを共通理解することができた。

(2) その他

- プログラミング教育については、情報教育主任のみが推進するものではなく、全ての教職員が同様に指導できるようにならなければならない。情報教育委員会が中心となり、より多くの教職員に研修の機会を提供していかなければならない。
- 西予市内小中学校の普通教室では、スクリーン・電子黒板機能付きプロジェクタ・書画カメラ・タブレット端末等が整備され、すぐに使える環境が整っている。使用頻度を上げるとともに、より効果的な活用法について研究を進めていきたい。また、不具合へのスムーズな対応について、市へ要望していきたい。

1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践

2 夏季実技研修内容

- (1) 日 時 平成30年8月16日(木) 10:00～12:00
- (2) 会 場 宇和島市立鶴島小学校パソコン教室
- (3) 参加対象 宇和島市小・中学校情報教育主任並びに希望者
- (4) 参加者数 32名
- (5) 内 容

研修	ICTを活用した授業改善 ～タブレット端末の活用と授業改善～ 講師：愛媛県総合教育センター 情報教育室 指導主事 平井 敬浩 指導主事 渡部 浩二
----	---

① 研修1「ICTを活用した授業改善－タブレット端末の活用－」

「教科指導におけるデジタル機器の活用について」と題して講義をしていただいた。宇和島市においては、小学校にはタブレット端末が、中学校にはiPadが導入されている。タブレット端末やiPad等を活用することで、「分かりやすい授業の実現」や「主体的・対話的で深い学びの実現」が可能であり、教員が進んで活用する必要性を教授いただいた。また、中学校で導入されたiPadの利点や活用法について、様々な機能やアプリがあり、タブレット端末以上に活用法があることも教えていただいた。



② 研修2「iPadを用いた実習」

授業で活用するにあたってのiPadの利点を教えていただいた後、実際に機器を用いての実習を行った。愛媛県総合教育センターにあるiPadを20台ほどお借りして、操作実習をした。まずは、標準アプリを用いたものである。

「世界時計」は、簡単に時差が分かるアプリで、日本とその都市の時差が瞬時に分かり、社会科や外国語科等で活用することができる。「カメラ」は、図形を撮影し、取り込んだものに自分の考えを書き込むことができる。それを、「Apple TV」を使って全体で共有し、各自が書き込んだものをもとに話し合い活動を行うことができた。「Apple TV」とiPadは無線で簡単に接続できた。これには、参加者からも驚きの声が多数挙がった。また、標準アプリ以外に授業で活用できるものとして紹介いただいたものは、「はなまるフォーム」（撮影した動画を遅延再生できるアプリ）、「タイミングCAP」（撮影した2つの動画を比較し、その違いを確認できるアプリ）、ストップモーションスタジオ（身近なものを撮影し、コマ撮り動画を作成するアプリ）である。本市の小学校で導入されているタブレット端末ではできないことが、iPadではできることもあり、参加された小学校の先生方からは、まさにiPadは羨望の的であった。



3 今後の課題

新しい機器が次々に導入されている中で、それらを駆使して児童生徒にいかに関指導できるかが問われている。わたしたち情報教育主任から各校の先生方に伝達していくことはもちろんであるが、教員一人一人が実践をさらに深め、機器活用の研究や指導力向上のための研修を重ねていきたい。

1 はじめに

研究目標を、「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践 ―教育の情報化の推進を通して―」として活動を行っている。各校においてICT機器の設置が進むなか、ICT機器を活用した授業展開の工夫について、ICT機器の設置状況の情報交換を行った。

2 視聴覚・情報教育委員会の活動について

(1) 第1回主任研修会

- ① 研究推進目標の立案
- ② 研究内容・推進計画の審議

(2) 第2回主任研修会

平成30年度鬼北町教育委員会指定ICT活用教育研究推進校研究発表会への参加

- ① 研究主題 基礎・基本を身に付け、自分の考えを表現する児童の育成
～ICTを効果的に活用し、主体的に学び合う学習指導の工夫を通して～

② 期日 平成30年11月1日(木)

③ 会場 鬼北町立好藤小学校

④ 公開授業

学年	教科等	単元名	指導者
6年	国語科	やまなし	酒井 済

⑤ 研究協議

ア 各校のICT活用教育の推進について

イ 授業についての意見交換

(3) 第3回主任研修会

① 今年度のまとめと反省

② 情報交換

各校におけるICT機器の設置状況等の情報交換をした。

(例) 松野中学校

		
<p>－理科室－</p> <p>短焦点プロジェクタを下から映す。スクリーンが固定できていないため、書き込みはできない。</p>	<p>－社会科教室－</p> <p>閉校した松野南小学校から譲り受けた電子黒板を使用している。</p>	<p>－ワークスペース－</p> <p>短焦点プロジェクタを上を設置したかったので、ホワイトボードを自作した。とても使い勝手がよい。</p>

3 研究の成果及び課題

第2回主任研修会で参加した研修会では、児童が1人1台タブレット端末を使用した国語科の研究授業が行われた。ICTを活用した授業を見ることで、今後各校でどのように授業を展開すればよいか考えることができた。児童・生徒にとって学力向上が一番の課題であり、ICTを活用することが優先課題にならないよう気を付けていきたい。また、各校のICT機器の設置状況の情報交換を通して、ICTについての知識を身に付け、視聴覚・情報教育主任が先頭に立ち、今後どのような機器を導入すればよいかしっかりと精査していく力を身に付けなければいけないと感じた。

1 はじめに

南宇和支部では、各校の視聴覚・情報教育主任を中心に視聴覚・情報教育委員会を構成し、「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践—教育の情報化の推進を通して—」を主題に研修を実施した。

2 教職員研修について

(1) 郡視聴覚・情報教育委員会

- ① 日時：平成30年4月24日（火）13：30～16：15
- ② 場所：愛南町立城辺中学校
- ③ 内容
 - ア 役員の選出
 - イ 本年度の研究主題の検討・決定
 - ウ 研究計画
 - (ア) 期日 7月上旬
 - (イ) 内容 実技研修（学校Webページについての研修）

(2) 研究実践状況（実技研修会）

一昨年度、南宇和郡の全ての小・中学校でコンピュータの入替が行われ、新しくタブレット端末が導入された。多くの教員が授業で活用してはいるものの、常に最先端の指導法を学ぶ必要がある。また、4月の時点では、郡内のほとんどの学校が、現行の愛媛スクールネット外部公開Webサーバを利用しており、新しいWebサーバへの移行が進んでいない状況であった。（現行のWebサーバは、2019年度末には公開終了）

そこで、本委員会の会員である各校の視聴覚・情報教育主任が、「NetCommons」を利用した学校Webページの構築について理解を深め、実際に構築、運用できるように研修を行った。

① 愛媛県総合教育センター出前講座「CMSを利用した学校ホームページの構築に関する研修」

- ア 日時：平成30年7月2日（月）13:30～16:30
- イ 場所：愛南町立一本松小学校 参加人数20名
- ウ 講師：県総合教育センター情報教育室
 - 檜垣賢志 室長
 - 谷山伸司 指導主事
 - 松田智也 指導主事

エ 内容

- (ア) 「NetCommons3」によるWebページの構築の方法
- (イ) 実習
- (ウ) Webページ開設、運用



3 成果と課題

本研修を実施することにより、南宇和郡のすべての学校が新しいWebサーバを利用したWebページに移行することができた。Webページの運用は各校に委ねることとなるが、視聴覚・情報教育委員会南宇和支部としても、多くの先生方に研修の機会を提供できるように努めていきたい。

1 はじめに

附属支部は、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校でそれぞれ視聴覚・情報教育の研究および研修を行っている。ここでは、主に附属小学校の取組を紹介する。

2 附属小学校でのICT環境と授業実践

(1) モニターの活用

今年度、第4学年以上の教室と一部特別教室に、資料や写真、電子教科書を提示できる65型モニターを導入した。付属のペンを使って画面上で学習資料を操作できるため、画面の前で資料を指し示しながら教師が説明や、児童が発表を行うことができ、内容をより伝えやすくすることができる。

(2) タブレット端末の活用

教師用タブレット端末(iPad)を更新し、全教職員を対象にその操作方法についての研修を重ねている。今後、モニターと連動させた利用方法を含めて、この端末を活用してどのような授業作りができるか研究を重ねていく。

また、本校では各教室にルータを設置し、タブレット端末を利用してWebページが閲覧できるようにしている。そのため、授業において調べ学習を行う際には、紙媒体に加えて児童用タブレット端末を活用して調べることができる。その他にも、カメラ機能を利用して、体育科などにおいて自分自身の動きを撮影したのを見て確認したり、一つのことを長時間観察したいときにタイムラプス撮影したりすることに活用している。

(3) 人型ロボット「Pepper」の活用

第3学年で、プログラミング教育のツール「Robo Blocks」を利用して、手などの動き、話す言葉などを指示するプログラムを作成して人型ロボットに反映させる学習を行った。

また、それ以外にも、人型ロボットには様々なアプリケーションがインストールされているため、児童は積極的に都道府県クイズや算数テストなどに挑戦するなどして触れ合っている(写真1)。



写真1 人型ロボットと朝の挨拶をする様子

(4) 放送室の活用

放送室に、クロマキー合成ができる機器を導入した。この機能を利用して、マイクの前で話す児童と、カメラやノートパソコンに表示している画像を合成して放送することができるようになった。アナウンスする児童の背景を、全校に紹介する図書の本や(写真2)その日の給食の写真にして、見た目に分かりやすい放送を行うことができた。



写真2 背景に映し出された本を紹介する様子

3 おわりに

ICTを効果的に活用する方法を考え実践していくことは、児童の学びを充実したものにする手助けとなった。また、ICTの活用を積み重ねることで、児童から「実験の前と後の様子を撮影し、後で比較したい」、「電子教科書を画面に出して説明してくれた方が分かりやすい」のような声も出てくるようになった。今後は、ICTの効果的な活用方法について研究し、実践を重ねていきたい。

1 平成30年度 高知県放送・視聴覚教育研究会夏期研修会 D-project 高知

「ICTを活用した授業づくり in 香美」

(1) 日時 平成30年7月30日(月) 13:30~16:45

(2) 場所 香美市山田小学校

(3) 内容

① SKYMENU を利用したワークショップ

基本的な SKYMENU の機能の活用方法の講習をうけた。ソフトウェアの機能は年々進化している。「マッピング」機能は、学習テーマに関連するキーワードをつなげ、思考の広がりを見える化するウェブマップ機能が開発されている。さらに、そのキーワードを「文書アシスト」機能を活用して、思考を整理しながら文章化することも可能になっている。

このように児童の考えを可視化し、整理するツールは年々進化している。それに対して、地方自治体の予算は、年々縮小もしくは、現状維持の状態になっている。この中でタブレット端末を増設したり、無線ネットワーク環境を構築したりすることも必要である。そうすると、新しいソフトウェアが開発されても導入することができにくい状況となっている。また、これらの機能を使いこなすための児童の操作スキルも必要となる。

限られた予算の中で、タブレット端末をどのように活用していくのかという具体的なビジョンをもった環境整備や機器の導入が、ますます重要になってくると考えられる。

② これからの時代を生きる子どもたちに必要な情報活用能力とは

講師 放送大学 教授 中川一史

新学習指導要領における情報教育の位置付けについて分かりやすく解説を行った。

ー講演内容概要ー

小学校の総則では、言語能力と同様に情報活用能力は児童にとって大事な力であるとされている。特に国語科の新学習指導要領解説には、これまでに比べてたくさん「情報」という言葉が使われている。国語科にも理科にも、直接「情報活用能力」という言葉は出てこないが、各教科の各項目の中に潜ませてある。そのため、系統的、教科横断的にどう繋がっているかを、教科で洗い出して整理する必要がある。

また、情報活用能力には、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の3観点で構成されている。小学校プログラミング教育の肝は、教科・領域のねらいとプログラミング的思考の重なる部分であると述べられ、全国で教科学習の論理的思考の場面の洗い出しを行っている。今後、プログラミング教育を推進していくにあたり、まず教師自らプログラミングを体験し、面白いものだと実感してアイデアを創出することが必要である。それから、教科・領域の学習活動へ埋め込んでいき、プログラミング的思考を含める資質・能力を考え、育てたい力や指導内容の見直しをしていく、カリキュラム・マネジメントが必要である。

2 「第50回放送教育研究会四国大会香川大会 小学校部会」

(1) 日時 平成30年10月25日(木) 9:30~16:25

(2) 場所 丸亀市立岡田小学校

(3) 研修会内容

① 大会研究主題

社会と連携・協働した未来の作り手を育成する放送・メディア教育を推進しよう

② 小学校部会研究主題

主体的にかかわり、学び合う子どもの育成

～対話型授業の充実と、放送・メディアの活用を通して～

③ 研修内容・所感

小学校部会の全体会提案・講演では、「対話型授業」の大切さについて話をうかがった。

公開授業は3年算数科「重さ」の授業を参観した。導入部分でNHK for Schoolの番組の一部を見せたこと、グループごとの課題追究の結果をタブレット端末で撮影し、教室のコンピュータに送信してみんなの前で発表したことが、視聴覚教育の取組として大事な部分であった。

NHK for Schoolは、課題追究のためのヒントとして視聴させたということであったが、課題に対する解決方法をほぼ示してしまっており、多様な考えを引き出すためにはマイナスであったと思う。結果として、グループごとの発表も内容がほぼ似たようなものになってしまい、それぞれの発表からの深め合いがあまりできなかったこと。「対話型の授業」という目標からすると課題が残ったと思う。



研究会では、「ともに学び合う子どもを育てる学校放送・メディアの活用」の部会に参加した。他県の提案発表者の実践事例で、地域探検のための資料としてWordで作られたという自作教材に感心した。自分でも作りたいと思った。

全体会では、NHK for Schoolのプロデューサーの方から、教育番組を制作する側の思い等を聴くことができた。

3 「第44回 全日本教育工学研究協議会全国大会川崎大会」 夢！希望！かわさき！未来社会を切り拓く資質・能力の育成

- (1) 日時 平成30年11月9日（金）～10日（土）
- (2) 場所 カルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化総合センター）
- (3) 研修会内容

① 公開授業 川崎市立旭町小学校

公開授業では、タブレット端末や実物投影機、電子黒板などを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されていた。タブレット端末のカメラ機能を用いて、児童の授業中のノートを撮影し、大型テレビに映したり、プリントアウトしたりすることで、多様な意見や考え方に触れることができていた。また、外国語活動の授業では、デジタル教科書から、英文やチャンツを音声として聞くことができ、個々の学びに応じてネイティブの発音に触れることができていた。これらの機能は、従来のアナログではできなかったことであり、ICT機器活用の可能性が示されていた。



② ワークショップ

夏の視聴覚・情報教育研究会で講師にお招きされた山口眞希先生（金沢市大徳小学校）が担当されていた「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業力の育成」に参加した。参加者を児童と見立て、小学5年生社会科「食料生産」の単元の模擬授業を行った。ジグソー法を用い、タブレット端末でそれぞれが異なる動画を視聴した後、分かったことをグループで伝え合い、食料生産の課題について考えていった。3つのそれぞれ異なる「NHK for School」の動画クリップを、3組に分かれて視聴することで、全員が積極的に授業に参加する必然性があり、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されていた。タブレット端末やWi-Fi環境を整備する必要はあるが、ICT機器の良さと、従来の学習法の良さをうまく融合させており、ICT機器を有効活用した授業の方向性を見いだすことができた。



③ 研究発表

プログラミング教育に関する発表を中心に聞いた。新学習指導要領完全実施に向けて、様々な先行的な試みがなされていた。プログラミングソフトの操作に時間が掛かると、教科のねらいが達成できず、プログラミング自体が主な活動になってしまう恐れが懸念されていた。教科のねらいに合致した内容をどの時間に実施するか、機材などの環境をどのように整えるかなど、2020年度に向け、早急に取り組むべき課題が多くあることが分かった。文部科学省が策定した「第3期教育振興基本計画」、「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」、「小学校プログラミング教育の手引（第二版）」などで示された指針をもとに、早急に取り組んでいく必要があると思う。

4 「第 67 回 近畿放送教育研究大会兵庫大会 小学校部会」

(1) 日時 平成 30 年 11 月 22 日 (木) 9:35~16:20

(2) 場所 神戸市立井吹の丘小学校

(3) 研修会内容

① 大会研究主題

自ら 高まる 深まる 学びの力の育成

— I C T を活用できる次世代の子供・学校の創生—

② 小学校部会研究主題

触れて 自ら 高まる 深まる 学びの力の育成

— I C T を活用できる次世代の子供・学校の育成—

③ 研修内容・所感

神戸市立井吹の丘小学校にて開催された「第 67 回近畿放送教育研究大会兵庫大会小学校部会」に参加させていただいた。神戸市内から少し離れた緑の多い静かな場所にある学校である。神戸市では 16 年ぶりとなる新設校で、周囲の西神南ニュータウンは、現在も街づくりが続き、海外を含む様々な土地から転入してきた人々によって町が構成されているようである。

まず、驚いたのは、全教室の前面に、壁掛けプロジェクタ、黒板に設置できるスクリーン、書画カメラ、TV、コンピュータが設置されていたことである。松山市内の小・中学校にある 50 インチの TV よりも大きくて見やすいと感じた。時間の関係で 6 年生と 4 年生しか参観することができなかったが、それぞれの学年でタブレット端末、SKYMENU を用いた授業を行っていた。

ア 6 年生 社会科「平和で豊かな国をめざして」

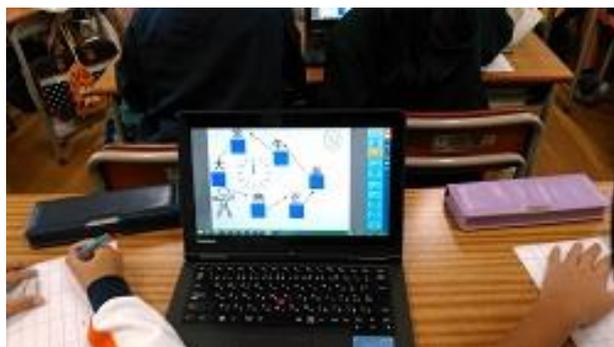
戦後と現在の工業地帯の写真を見比べ、環境問題や経済の発展などを自分たちで考えさせるという授業である。高度経済成長は、我が国にとってどうだったかを、環境や経済の対立する立場で話し合う。二人で 1 台のタブレット端末を使い、ペアで自分たちの主張する資料をインターネットで探し出し、SKYMENU のノート機能を使ってプレゼンテーションを完成させていた。機器の扱いにもなれており、話し合いのツールとして、I C T が効果的に機能していた。



イ 4 年生 国語科 「漢字しりとり」

ペアで 1 台のタブレット端末を使い、SKYMENU を使って漢字のしりとりクイズを作成していた。ペアだったので苦手な児童も安心して作業できていた。

その後の研究協議では、各県の I C T 事情についての報告などがあつた。淡路島では、3 年生以上は全員自分専用のタブレット端末を持っており、中学校まで持ち上がるということに驚いた。



5 「Educational Solution Seminar 2018 in 栃木」

- (1) 日時 平成 30 年 12 月 26 日
- (2) 場所 栃木県小山市桑市民交流センター
- (3) 研修内容

受付前、セミナー開催中には、企業展示が行われていた。デジタル教科書、プログラミング教材など、今話題に上がっている最新の ICT 機器がたくさん展示されていた。

開会式では、富士電機 IT ソリューション株式会社より、教育の情報化の進み具合や学習指導要領改訂など最新の動向が説明された。また、国の情報化推進の取組や今後の方針も紹介された。

① 「小学校プログラミング教育の実際～具体的な授業イメージの紹介～」

特定非営利活動法人「みんなのコード」主任講師、福田晴一氏の講演であった。

はじめに、プログラミング教育の意義や新学習指導要領での位置付けについて説明された。家庭科の調理実習で調理師を育てるのではないように、プログラミング教育でプログラマーを育てるものではないということ話をされた。

次に、プログラミング教材を活用した授業実践を紹介された。「プログル」を活用しての 5 年算数「正多角形と円」、「micro:bit」を使った 6 年理科「電気の利用」、4 年総合的な学習の時間を使ってのプログラミング教育の授業実践を紹介された。プログラミング教育の授業は、アンプラグド、プログラミング教材を使った取組、ロボットなどの機材を利用した取組などがあるが、どれを使っても、論理的思考力を身に付けることを一番に考え、学校の教育目標や児童の実情に応じて工夫して取り入れていくことが求められることが分かった。

② 「学校プログラミング教育の授業実践～小山市各学校における実践事例の紹介～」

小山市立教育研究所の情報教育研究員から、実践事例が紹介された。

小山市は、教育研究所が中心となり、教育の情報化を推進している。平成 29 年度からは、プログラミング教育にも積極的に取り組んでいた。「プログラミング指導教員養成塾」（特定非営利活動法人「みんなのコード」主催）を開催したり、計画的に研修会を行ったりして、本格実施へ準備を進めていた。まずは教員がプログラミング教育を体験することで、不安を払拭したり、児童への指導力向上を目指したりしていたのが印象的であった。このような取組で、今後、市内各校で、プログラミング教育を推進するリーダーが育っていき、児童への指導も進んでいくと思われる。

自分の思いや願いをもって、協働的に学ぶ児童の育成 ～「NHK for School 歴史にドキリ」とタブレット端末の活用を通して～

松山市立椿小学校

教諭 松本 真介

1 主題について

「NHK for School 歴史にドキリ」を話し合い活動の根拠となる情報源として視聴した。そして、深める活動では、テーマ別に分かれ、タブレット端末で番組を再視聴したり、動画クリップで関連情報を収集したりした。その後、全体で情報を共有するなど、動画視聴と協働的な学びとを結び付けた。

本実践は、社会科で学ぶ我が国の歴史的事象を歴史上の出来事にとどめるのではなく、事象を様々な視点で考察することで、歴史を学ぶ意義の理解や現代社会に対する関心を高め、主体的・対話的な深い学びにつなげることをねらいとしている。視点を決めて番組を視聴させたり、タブレットで関連情報を収集させたりすることで、話し合い活動の根拠を固められるようにした。それを基に、立場や考え方の異なる相手と協働して学ぶ状況を設定することで、学習効果の高まりを期待した。

2 研究内容

- (1) 対象 6年生児童 30名
- (2) 教科 社会科 単元「江戸時代と政治の安定」
- (3) 研究の視点
 - ① 自分の考えをもたせる工夫
 - ア NHK for School 視聴のための視点づくり
 - ② 協働的な学びの場の工夫
 - ア 学習形態の工夫
 - イ 話し合いの目的の明確化

社会科の学習に取り組むにあたり、「NHK for School 歴史にドキリ（全 42 回）」を継続して視聴させてきた。単元「江戸時代と政治の安定」では、立場や考え方の異なる相手と協働して学ぶ状況を設定した。番組は、単元の導入で視聴し、その後は、動画や教科書などの資料を根拠に自分の考えをもてるように授業を組み立てた。①幕府、②大名、③百姓・町人の3つの視点で自分の考えをまとめていった。

3 研究成果と今後の課題

(1) 成果

単元の導入で番組を視聴し、児童の興味・関心を引き出し、見通しをもって学習に取り組ませることができた。教科書や資料集、NHK for School の動画コンテンツを総合的に活用することで、江戸時代は「幕府により大名や多数の民衆が抑圧的に支配された時代」という一面的な見方から、「厳しいが栄えた時代」、「どの身分も頑張った時代」など多面的な見方をする児童が増えた。

また、3人グループで自分たちの考えを伝え合い、考えを収束させた活動を見ても、武士の立場からだけではなく、いろいろな身分の立場から時代背景を考えていることが分かった。

そして、立場や考え方の異なる友達と交流することにより、「自分だけでは気が付かないことを友達が教えてくれた」や「友達と一緒に深く考えることができた」、「友達と教え合うことが楽しかった」などと、協働的に学び合うよさに気付き、学習意欲に高まりが見られた。また、学習前後に「江戸時代はなぜ約300年も続いたのだろうか」という問いを児童に投げ掛け、自由記述させた内容を分析した結果、事実を比較したり関連付けたりしながら自分の考えを書いている児童の割合が、30%（学習前）から60%（学習後）と増加した。

話し合いに必要な資料や学習課題等を、タブレット端末で提示できるようにしたことで、児童は資料を拡大したり、何度も動画を見せたりして、効果的に自分の考えを相手に伝えることができた。NHK for School の動画コンテンツは「プレイリスト機能」を使用することで、提示までに掛かる無駄な時間を減らすことができた。必要な動画資料を、番組や『動画クリップセレクション100 小学校社会編』から教師がピックアップしてプレイリストを作成し、児童に使わせることで、スムーズに授業準備することができた。単元を通しての授業のルーティン化と、何をするか迷ったら学習課題を確認することを繰り返し指導したことで、児童は次に取り組むことが明確になり、進んで調べたり話し合ったりできた。

（2）課題

「NHK for School 歴史にドキリ」の特性として「人物目線で歴史を知る」ということが挙げられる。人物の人となりや業績等に児童の意識がフォーカスされ、一面的な見方や考え方になるのを防ぐために、教科書や資料集など複数の資料を総合的に活用する必要がある。

「職業選択の幅を広げるために放送・視聴覚教育を推進しよう。」
 ～学校放送番組を活用して、様々な職業や価値観について考える～

松山市立高浜中学校
 教諭 安西大地

1 主題について

本校は、生徒数 130 名、学級数 7（内特別支援 2）の小規模校である。小規模校ではあるが、年間を通して様々な行事が行われており、地域と連携した体験活動が充実している。その内のひとつである職場体験学習が、第 2 学年において 8 月に 3 日間、11 月に 2 日間の計 5 日間実施された。

本校第 2 学年は 40 名（内特別支援 2 名）、学級数 3（内特別支援 2）である。職場体験学習の事前学習の際に生徒に調査を行ったところ、興味関心のある職種に偏りが見られるとともに、職業に関する知識も十分ではないことがわかった。また、授業時数の関係で、多種多様な職業について考える機会や実際に働く人への聞き取り調査などの時間がなかなか確保できない課題もある。

そこで、学校放送番組を活用し、生徒が職場で働く人やインタビューの様子を視聴することで、職業や働き方の多様性や様々な価値観について知り、職業選択の幅を広げていきたいと考え本主題を設定した。

2 研究内容

(1) 学級の実態調査

研究内容

(1) 学級の実態調査
 <職場体験学習希望職種アンケート>

10のジャンル、52の職種のうち
 第1希望から第8希望までを選択

↓

職場体験学習の希望職種から
 生徒の興味関心を把握する



研究内容

(1) 学級の実態調査
 <職場体験学習希望職種アンケート>

<興味関心が高い>

- ・ 医療・健康の仕事
- ・ 飲食に関する仕事
- ・ 福祉・教育の仕事

<興味関心が低い>

- ・ 情報・芸術の仕事
- ・ 金融・官庁の仕事
- ・ 農林漁業の仕事

(2) 学校放送番組を活用した授業構想

研究内容

(2) 学校放送番組を活用した授業構想

興味関心のある職種の職業調べ

↓

グループに分かれて職業調べの発表

↓

学校放送番組の視聴

↓

職場体験学習(前期)



授業実践

活用番組：職業ガイダンス

第1回「動物にかかわる仕事・建築現場で働く」
 第2回「スポーツにかかわる仕事・メディアにかかわる仕事」
 第3回「食にかかわる仕事・**漁業にかかわる仕事**」

授業実施日 平成30年 5月31日
 平成30年 6月4日
 平成30年 6月6日
 授業実施学年…中学2年生

(3) 視聴前後における生徒の変容

研究内容
(3) 視聴前後における生徒の変容

<視聴前>			<視聴後>		
番号	ジャンル	点数	番号	ジャンル	点数
1	医療・健康の仕事	56	1	飲食に関する仕事	53
2	飲食に関する仕事	42	2	医療・健康の仕事	50
3	福祉・教育の仕事	35	3	福祉・教育の仕事	34
4	観光の仕事	23	4	理・美容の仕事	25
5	ものを売る仕事	22	5	ものを売る仕事	22
6	ものづくりの仕事	22	6	ものづくりの仕事	21
7	理・美容の仕事	20	7	農林漁業の仕事	19
8	情報・芸術の仕事	17	8	観光の仕事	17
9	金融・官庁の仕事	10	9	金融・官庁の仕事	15
10	農林漁業の仕事	5	10	情報・芸術の仕事	10

研究内容
(3) 視聴前後における生徒の変容

<視聴前>
(職業調べの感想より)

- 楽しそうなのでやってみたいと思った。
- 収入が高くて稼げそうだった。
- 休みの日が思ったよりもあることがわかった。

職業に対して楽観的に考えているような意見

研究内容
(3) 視聴前後における生徒の変容

<視聴後>

<感想>
海の仕事がいっぱいあるのを知ることができた。女性でもできる。

<感想>
1回の視聴で100%の分の知ることができたと思います。

新たに興味関心をもつような感想

研究内容
(3) 視聴前後における生徒の変容

<視聴後>

<感想>
100%の分の仕事を、視聴の中で100%と知ることができた。

<感想>
職業は面白い。大変さは知っていたけれど、関係と関係のつながりを知ることができた。仕事は楽しそうだから、もっと知りたい。

仕事のやりがいや大変さについて気づくような感想

研究内容
(3) 視聴前後における生徒の変容

<視聴後>

<感想>
100%の分の仕事を、視聴の中で100%と知ることができた。

<感想>
新しいものは「好き」という気持ちだけでなく、色々な価値観について気づくことができた。

様々な価値観についての感想

3 研究成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 学校放送番組を視聴することによって、職業についての視野を広げることができ、新たに興味・関心をもつことができた。
- ② 学校放送番組を活用し、実際に働く人の様子を視聴することで、仕事のやりがいや大変さについて知ることができた。
- ③ 職業選択の幅を広げるための様々な価値観について気付くことができた。

(2) 課題

- ① 生徒の実態に即した学校放送番組の教材研究
- ② 学校放送番組とワークシートのバランスのとれた活用の工夫
- ③ 学校放送番組視聴後の意見交換の充実

視聴覚・情報教育に関する実態調査について

1 調査の概要

今年度は、昨年度までの視聴覚教育委員会との統合もあり、視聴覚・情報教育委員会として新しいスタートとなった。昨年度までの情報教育委員会では、愛媛県下の小・中学校の情報教育推進状況を把握するために情報教育に関する調査を実施していた。この調査は県下全小・中学校を対象とし、平成7年度より本年度まで継続して24年目を迎えている。集計結果や考察は、本紀要に掲載するだけでなく、当該支部と県の集計結果を各支部に送付し、ICT活用の啓発や機器の導入等に活用することができるようにしている。

2 調査内容

上記の通り、昨年度までの視聴覚教育委員会と情報教育委員会の統合もあり、視聴覚・情報教育委員会としてスタートすることになったため、昨年度のものに質問内容を追加した。各校の個人のアンケートに「NHK for School」の利用について、各校の主任へのアンケートに「NHK for School」の利用環境についてと、通信簿・指導要録の電子化に関する調査を行った。

3 結果及び考察

(1) セキュリティポリシーについて（USBメモリの利用について等）

教育委員会および学校独自のセキュリティポリシーを作成し、厳格に管理・運用していると記入した学校が増加し、個人のモラル任せになっているという学校は昨年より減少している。校内研修の実施や、ネットワークシステムの充実により、USBメモリの使用は、昨年度より減少したとする記入が目立った。また、今年度より「指定されたUSBメモリ」のみ利用可、という方針を出した教育委員会が複数ある。

(2) 周辺機器・ソフトウェアの整備状況について

導入された機器・ソフトウェアが十分整備されていると記入した学校もあるが、多くの学校は整備状況に様々な不満を抱えている。機器の台数不足、低スペック（古さを含む）、希望するソフトウェアの未導入、消耗品用の予算不足等、学校によって様々である。教育委員会に働きかけるが、なかなか変わらない、と不満のある学校の一部では、学校独自の予算の年次計画を立て、不足する周辺機器やデジタル教科書等を購入しているところもある。

(3) 授業での活用状況について

普通教室のコンピュータ設置により、数年前に比べて中学校で授業に活用しやすくなった（資料の提示等）という声が聞かれる。ただ、インターネットの回線速度、コンピュータの性能の低さ、台数不足といった機器・環境の整備が不十分という声も多い。（クラスの人数が40人に近い場合、インターネットを使った調べ学習で、画面が切り替わるのに時間がかかりすぎる。等）

デジタル教科書についても、普通教室で使える学校、コンピュータ室でのみ使える学校と、様々である。さらに、全教科そろっているわけではないので、教科によって不満が残るものとなっている。

(4) 通信簿・指導要録の電子化について

通信簿については、「中学校 100%、小学校 95%」で、指導要録については、「中学校 90%、小学校 84%」で電子化が行われていた。各教育委員会（市・郡・町）で導入しているため、電子化が行われていない学校はごく一部となっている。今年度新設した質問であったため、何年前から電子化が行われるようになり、どのように変化してきたかわからないのが悔やまれる。

電子化の制作者は、通信簿に関しては、「業者と教師個人（またはグループ）が約半数ずつ」であったが、指導要録に関しては、「業者と教師個人（またはグループ）の比が 4 : 1」と圧倒的に業者が多くなった。ただ、通信簿と指導要録のどちらについてもいえるが、同じ教育委員会内の学校でも、「業者がつくった」、「その他」が混在する。これは、ある学校では「業者がつくった」と解答したが、ある学校では「教育委員会から指定されたもの」を使っているが「業者がつくった」か「教師個人（またはグループ）」のどちらがつくったかわからないので「その他」で解答したという各校主任の認識の違いによるものであった。この点を明確にするには、支部委員長の先生に、教育委員会に問い合わせをしていただき、その結果を各校の主任の先生に伝えていただくのがいいと考える。そうすることで今年度と数値の変化は出てくるだろうが、正確な結果となるだろう。

(5) 通信簿・指導要録のデータ改ざん対策について

通信簿・指導要録の電子化を行ったことで、その電子データをどのように扱うかは対応が分かれた。「決裁後はデータをロックする」が 60%、「1 年毎に印刷し、紙媒体のみ保存」が 28%、「その他」が 12%であった。

データについても、二重パスワードのロックを行っている学校もあれば、データにロックをしないままの学校もあった。対応に差があるのが気にかかる。

(6) 「NHK for School」の利用状況と視聴環境について

「NHK for School」の授業への利用頻度は、「よく利用している」「たまに実施している」を合わせると、小学校で 60%、中学校で 29%と大きく差がついた。

普通教室の「整っている」が 70%、「一部整っている」が 10%の合計 80%に対して、特別教室は「整っている」が 55%、「一部整っている」が 35%の合計 90%であった。特別教室によって視聴できない教室が多いことがわかる。

(7) その他

不満の上位は、相変わらずコンピュータの不調・故障時のサポート体制である。1 クラスの人数が多く、故障が重なったときに児童・生徒一人に一台のコンピュータがない場面があるといったものである。小学校では、プログラミング教育に向けての研修がまだ不十分という意見が多い。

このアンケートも、「漠然とした質問で何を答えればいいのかわからない。」というご意見をいただいた。事務局内での話し合いでは気付かない点を指摘していただくこともあり、先生方のために我々がどうすればよいか常に考えていきたい。

視聴覚・情報教育に関する調査 教職員個人調査票 (H30年度版)

集計結果・・・%

Q ICT機器(コンピュータ、タブレット端末、実物投影機等)を活用した授業をしていますか。		集計結果・・・%					
		小学校		中学校		小・中合計	
4-4	いつも実施している。	22.6		17.5		20.8	
4-5	よく実施している。	36.1		24.6		32.2	
4-6	たまに実施している。	31.4		40.8		34.6	
4-8	実施していない。	10.0		17.0		12.4	
Q 前設問で、「実施している」と回答した方は、その際に用いる機器等を教えてください。							
4-9-1	コンピュータ	46.2		60.5		50.2	
4-9-2	タブレット端末	17.3		20.5		18.2	
4-14	実物投影機	36.5		19.0		31.7	
Q 研修を受けるとしたらどのような内容を受けたいと思いますか。							
4-25	表計算やデータベース等の校務における活用	13.1		14.0		13.4	
4-28	プレゼンテーションソフトの活用方法	6.3		9.5		7.4	
4-29	コンピュータを活用した、ビデオ等動画編集の方法	12.6		17.4		14.2	
4-30-1	授業でのコンピュータ等の活用方法	25.7		19.4		23.6	
4-30-2	タブレット端末の活用方法	34.9		31.9		33.9	
4-31	情報モラル、セキュリティ等に関する理論研修	6.5		7.1		6.7	
4-33	その他	1.0		0.7		0.9	
Q あなたの学校で情報教育推進上諸問題があると感じられる内容はどれですか。今後の希望などをお聞かせください。							
4-36	研修の機会の確保、研修の充実など教職員研修に関して	10.2		11.5		10.6	
4-37	専門的な知識をもつ人物の確保、支援員、IT教員など人的資源に関して	23.6		20.8		22.7	
4-38	情報教育の推進、授業における活用、カリキュラムなどに関して	10.1		6.8		9.0	
4-39	インターネット回線速度の格差、LANの整備など通信ネットワーク・Webページ運用に関して	10.6		11.8		11.0	
4-40	コンピュータ不調・故障時の対応、サポートの充実などコンピュータの保守・修理に関して	11.4		11.1		11.3	
4-41	OSの混在、台数・教室の不足、機器の充実など環境・導入機器・機種に関して	16.4		18.8		17.1	
4-42	活用できるソフトウェアの導入、ソフトウェアの使用方法などソフトウェアに関して	15.8		18.2		16.5	
4-43	その他	2.0		1.1		1.3	
Q 愛教研のWebページを見たことがありますか。		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
4-45	見たことがある。	75.6	24.4	69.2	30.8	73.4	26.6
Q 個人所有のカメラを授業等に使用したことがありますか。(ビデオカメラ・デジタルカメラ・タブレット端末・携帯電話・スマートフォン等を含む)		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
4-46	使用したことがある。	57.2	42.8	54.5	45.5	56.3	43.7
Q 「NHK for school」の利用頻度は次のうちどれですか。							
5-1	よく実施している。	22.0		7.0		16.9	
5-2	たまに実施している。	38.1		22.3		32.7	
5-3	実施していない。	39.8		70.7		50.4	
Q 「NHK for school」以外の放送番組や動画コンテンツなどの教育メディアを活用していますか。		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
5-4	活用している。	25.3	74.7	19.5	80.5	23.3	76.7

おわりに

平成30年度は、視聴覚教育委員会、情報教育委員会が統合された初年度となる大きな節目の年となりました。昨年度一年間、統合に向けて両委員会の代表者が協議を重ね、4月から新組織でスタートしましたが、長い活動の歴史と引き継いできた活動の場を持つ二つの委員会が統合することには、多少の不安もありました。しかし、初年度の一年を終えてみると、いくつかの課題が残ったものの、両委員会の研究や実践の積み重ねがうまく融合した活動ができたように思います。特に夏季研修会については、両委員会が構築してきた全国組織や県外の先進的な取組を行う実践者との連携が生かされたおかげで、これまでにない充実した研修会を実施することができました。

小学校では2020年度、中学校はその翌年の新学習指導要領の完全実施が迫る中、文部科学省からは「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」が出されています。急速に進展する高度情報社会に対応すべく、学校のICT環境の整備のための財政措置が講じられることによって、今後も新しいICT機器が教育現場に導入されることが想定されます。新学習指導要領においては、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられており、小学校においてはプログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習活動において、これまで以上に積極的にICTを活用することが求められています。本委員会が長年調査を継続してきた各支部のICT環境の調査によると、これまでの様々なICT機器の導入においては、それぞれの自治体によって時期と規模に差があることが明らかになっています。しかし、児童生徒の情報活用能力育成のためには導入されたそれぞれのICT環境を、「どのように活用していくか」ということについて、教員自らも主体的に学び、効果的な活用を図っていく必要があります。

本委員会においては、今後もタブレット端末を活用した授業実践研究やプログラミング教育の実践事例の紹介等に焦点を当てながら、研修会の充実を図り、Webページに研究の成果を掲載することによって、微力ながら愛媛の情報教育の推進に貢献していきたいと思えます。

本年一年間の活動に対する皆様のご協力に深く感謝いたしますとともに、今後の愛媛の視聴覚教育、情報教育推進のために、共に取り組んでいただくことを重ねてお願い申し上げます。

平成31年3月

愛媛県教育研究協議会視聴覚・情報教育委員会

平成30年度 愛媛県教育研究協議会 視聴覚・情報教育委員会

委員長

委員長	藤原 愛明	朝倉小
-----	-------	-----

副委員長

1	東予	久保 信太郎	乃万小
2	中予	橋本 佳史	北山崎小
3	南予	城岡 英和	奥南小

幹事

1	東予	坂下 慶光	土居小
2	中予	松本 真介	椿小
3	南予	井上 武	僧都小

副幹事

1	東予	石井 淳平	神郷小
2	中予	川本 真也	由並小
3	南予	岡村 重典	肱川中

支部委員長

1	四国中央	坂下 慶光	土居小
2	新居浜	石井 淳平	神郷小
3	西条	相原 麻衣	東予東中
4	今治・越智	久保 信太郎	乃万小
5	松山	松本 真介	椿小
6	東温	渡部 浩喜	南吉井小
7	伊予	川本 真也	由並小
8	上浮穴	福住 淳己	明神小
9	大洲	岡村 重典	肱東中
10	喜多	今永 泰生	小田小
11	八幡浜	上田 英輝	八代中
12	西宇和	阿部 雅浩	伊方小
13	西予	黒田 立史	明浜小
14	宇和島	城岡 英和	奥南小
15	北宇和	加藤 達也	松野中
16	南宇和	井上 武	僧都小
17	附属	金井 慎吾	附属小

事務局

1	事務局長	岡崎 敬之	松前小
2	事務局次長 放送教育部長	續田 潤	坂本小
3	研究部長	石田 年保	椿小
4	編集部長	井上 暢	北伊予小
5	調査部長	水口 憲和	余土中
6	Web管理部長	小山 清	北条北中
7	研究部	中野 圭一郎	久万小
8	研究部	清水 建吾	川内中
9	研究部	阿部 泰成	宮前小
10	編集部	菅野 智雄	北久米小
11	編集部	渡部 浩喜	南吉井小
12	調査部	渡部 優貴	翠小
13	調査部	豊田 高広	北久米小
14	Web管理部	東 博得	椿中
15	放送教育部部	原 佳嗣	窪田小
16	放送教育部部	寺谷 博将	内宮中
17	放送教育部部	松本 真介	椿小
18	放送教育部部	宮内 伶	三津浜中

愛教研事務局	中川 淳一
--------	-------